

2022年度 病院年報

独立行政法人国立病院機構

岩国医療センター



巻頭言

国立病院機構岩国医療センター
病院長 田中屋 宏爾

この度、2022年度の岩国医療センターにおける各診療科、部門毎の活動実績と、論文や学会発表などの研究業績をまとめ、病院年報として皆様にお届けできますことを大変嬉しく思っております。

各診療科とも低侵襲で効果の高い治療に取り組んでおり、「ダビンチ」によるロボット支援手術は、泌尿器科と消化器外科を合わせて年間140件を超えました。また、脊椎脊髄センターを新たに開設し、より高度な診療に取り組んでいます。パンデミックで診療や研究活動が制限される中でもしっかりとリサーチマインドを育み、「NATURE」誌や

「CLINICAL CANCER RESEARCH」誌といったトップジャーナルにも研究報告が掲載されました。さらに、臨床検査科・病理診断科は国際規格「ISO 15189」の認定を取得しました。当院の検査結果に関する精度管理が高いレベルにあることを第三者機関により証明いただいたことで、臨床や研究の発展にも弾みがつきました。

さて、2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが、二類感染症に準じた指定感染症扱いから五類感染症に変更され、全国的に社会活動が活性化してまいりました。当院でも、コロナの重点医療機関として病床確保のために休んでいた緩和病棟を再開することができました。また、4月から新たに糖尿病専門の常勤医による診療も開始しております。沖縄では急激なコロナの感染拡大が報道されて予断を許さない状況が続いておりますが、地域住民の方々の方より良い生活に貢献できるよう努めてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 2022年度 病院年報

診療科紹介

内科	2
消化器内科	3
肝臓内科	4
呼吸器内科	5
循環器内科	6
血液内科	7
小児科	8
小児循環器科	9
外科	10
胸部外科	11
整形外科	12
形成外科	13
脳神経外科	14
心臓血管外科	15
小児外科	16
皮膚科	17
泌尿器科	18
産科	19
婦人科	20
眼科	21
耳鼻咽喉科	22
救急科	23
放射線科	24
麻酔科	25
病理診断科	26
腎臓内科	27

各部門活動報告

薬剤部	29
臨床検査科	30
放射線科	33
リハビリテーション科	35
栄養管理室	37

看護部

5階西病棟	39
5階東病棟	40
6階西病棟	41
7階西病棟	42
7階東病棟	43
8階西病棟	44
8階東病棟	45
9階西病棟	46
9階東病棟	47
10階西病棟	48
10階東病棟	49
ICU	50
外来	51
手術室	52
地域医療連携係	53
入退院センター	54

研究活動業績

学術論文	56
学会発表等	62

研究一覧

臨床研究	76
院内研究	81
治験	83
特定使用成績調査	84
使用成績調査	86
副作用報告	87
その他の研究	88

【各科紹介】

診療科名： 内科

当院の総合内科を担当する医師は全員がいずれかの臓器専門医である。難解な病気を名探偵のごとく解明するドクターGはいない(残念だが)、プライマリケアの段階から継続したケアを調整してゆく家庭医の役割も果たしていない。混成部隊とはいえ、各領域だけの専門的知識のみに頼っているはその領域すらきちんと理解できない時代であることをしつかりと心に留めている。さらに、臓器の視点だけから見た専門領域はすでに時代遅れとなりつつあり、たとえば、腫瘍、免疫、栄養、緩和などといった総合的で新しい専門的切り口が益々重視されてきている。このこともこれからの総合内科の存在価値といえるのではなかろうか。すなわち、"総合内科的"とは、極論、質の高い専門医診療であろう。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,899	1,373	299
平均患者数	13.4	3.8	0.8
平均在院日数	5.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
腎臓又は尿路の感染症	25
徐脈性不整脈	22
その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	14
敗血症	13
その他の感染症（真菌を除く。）	13
その他の循環器の障害	13
誤嚥性肺炎	11
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	11
肺炎等	10
心不全	10
全体	270

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	3
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2cm未満	2
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	2
網膜光凝固術 その他特殊なもの（一連につき）	1
経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの	1
内視鏡的胆道ステント留置術	1
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
207	63	270	76.7%	180	66.7%

診療科名： 消化器内科

当科においては、内視鏡を用いた消化管及び胆膵疾患の診断・治療を少数精鋭で行っています。
 全例NBI拡大機能を搭載した最新スコープシステムによる検査、EMR/ESD、ステント留置、胆管結石除去、止血、PEGなど基本的な内視鏡的診断・治療のみならず、EUS-FNAを応用したEUS-BDや十二指腸腫瘍に対するUEMR、外科医と共同のLECS等、最新の治療手技にも取り組んでいます。
 とくに胆膵関連は山口県下ではトップクラスの症例数（年間約700件）をこなしています。
 また、当院は山口県東部の中核病院であり、救命救急センターも有しているため、緊急内視鏡の件数が多く、年間約200件を24時間体制でこなしています。
 胃内視鏡は、ほぼ全例に鎮静+炭酸ガス送気で行っており、患者さんに優しい、苦痛のない内視鏡を心がけています。
 また当科は日本消化器病学会ならびに日本消化器内視鏡学会の認定指導施設として今後も必要性が高まる内視鏡医の育成にも力を入れています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	13,677	877	1,281
平均患者数	37.4	2.4	3.5
平均在院日数	12.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
胆管（肝内外）結石、胆管炎	181
膵臓、脾臓の腫瘍	120
胃の悪性腫瘍	116
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	90
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	65
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	64
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	59
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	46
急性膵炎、被包化壊死	45
虚血性腸炎	41
全体	1,259

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡的胆道ステント留置術	114
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみ のもの	112
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径 2cm未満	68
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	66
内視鏡的消化管止血術	42
小腸結腸内視鏡的止血術	30
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	27
超音波内視鏡下瘻孔形成術（腹腔内膿瘍に 対するもの）	25
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径 2cm以上	20
内視鏡的膵管ステント留置術	20

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者 割合	全体のうち、 救急搬送数	救急搬送 割合
1115	144	1259	88.6%	227	18.0%

診療科名： 肝臓内科

国立病院機構岩国医療センターは山口県東部に位置した基幹病院です。我々肝臓内科は肝臓専門医2人の常駐勤務医のみではありますが、毎週水曜日に、岡山大学からも肝疾患専門医師を招き、肝疾患を担当させていただいております。

以前はC型慢性肝炎の治療のご相談がよく見られておりましたが、近年は原因不明の肝機能異常の精査目的にご紹介を受ける比率が多くなりました。CT・MRIや腹部超音波検査といった画像検査や血液検査はもちろん、入院が必要ですがエコー下肝生検を行って病理診断学的に診断を行い、診断をつけて治療を行っております。しかし以前に比べて少なくなってきたとはいえ、B型・C型肝炎のご紹介もあり、これらの治療も引き続き行っております。

そのほか肝臓癌の治療として腹部血管造影検査やラジオ波焼灼術だけでなく、近年発表された化学療法も行っております。そのほか、肝臓癌としては非典型的な肝腫瘍も肝腫瘍生検をして確定診断をつけて、外科や消化器内科などの他科とも連携を取りながら検査を進めていくことも行っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,237	57	75
平均患者数	3.4	0.2	0.2
平均在院日数	18.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	38
腎臓又は尿路の感染症	10
慢性C型肝炎	5
肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	5
アルコール性肝障害	4
慢性肝炎（慢性C型肝炎を除く。）	3
敗血症	2
ヘルニアの記載のない腸閉塞	2
その他の感染症（真菌を除く。）	1
その他の消化管の障害	1
全体	75

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） 選択的動脈化学塞栓術	15
経皮的肝腫瘍ドレナージ術	1
経尿道的尿管ステント留置術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
71	4	75	94.7%	14	18.7%

診療科名： 呼吸器内科

呼吸器内科は入院患者の半数は肺癌となっており、その他に肺炎、胸膜炎、誤嚥性肺炎、非結核性抗酸菌症、肉腫等の治療を行っております。

肺癌に対して細胞障害性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、単剤または併用し手の化学療法を行いました。昨年は術後化学療法として免疫チェックポイント阻害薬や、分子標的薬の使用が可能になり、抗がん薬の適応範囲が広がっております。さらに今年は術前化学療法が保険適応になり、呼吸器内科で治療を担当しております。

研究面では国立がん研究センター東病院のLC-SCRUM Asia研究に積極的に参加しており、Liquid Biopsyでの成果をClinical Cancer Research誌に報告しており、当院も共著者として掲載されております。その他多数の論文は発表しております。各種試験、臨床試験を行っております。また包括的がんゲノムプロファイリング検査を行っております。今後とも宜しくお願いいたします。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	19,222	1,014	1,341
平均患者数	52.5	2.8	3.7
平均在院日数	16.3	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	635
その他の感染症（真菌を除く。）	153
間質性肺炎	121
肺炎等	113
誤嚥性肺炎	74
慢性閉塞性肺疾患	25
抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	19
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	14
軟部の悪性腫瘍（脊髄を除く。）	14
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	14
全体	1,338

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	5
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2cm未満	4
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	4
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方又は後	3
気管切開術	2
頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	2
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）止血術	2
気管支異物除去術 直達鏡によるもの	2
小腸結腸内視鏡的止血術	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1162	176	1338	86.8%	186	13.9%

診療科名： 循環器内科

[診療体制] 2023年度の体制は、(診療部長)片山、(医長)田中屋、川本、和田、大塚、および、小出、赤井、(循環器専攻医)村田、高山、松尾、(内科専攻医)永野の11名となっています。循環器救急診療を重視しており、夜間・休日も3名体制(院内常駐および院外待機)で24時間365日の緊急治療が可能です。また、内科、循環器、カテーテル治療、不整脈のそれぞれ研修施設として、各専門医の取得が可能となっています。

[診療の特色]2022年度の循環器内科の全入院患者数1523人のうち、紹介患者数(救急搬送を含む)は1333人(87.5%)と大半を占めており、ご紹介いただいたご施設様に篤く御礼を申し上げます。また、救急搬送から緊急入院となる患者(375人、24.6%)も多く、急性かつ重篤な病態をとることも多い循環器疾患の特性を表しています。そのため、入院上位の疾患(手術)としては、心不全、虚血性心疾患および急性心筋梗塞(PCI)、不整脈(アブレーション、ペースメーカー)、閉塞性動脈疾患(EVT)となっており、各件数はそれぞれ昨年と同程度~増加となっています。心不全患者については、積極的な原因精査・治療はもちろん、近年さらに進化した内服治療の導入(Fantastic 4など)、心臓リハビリ、心不全カンファレンスといった包括的マネジメントによって再発予防を行っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	16,840	1,489	1,551
平均患者数	46.0	4.1	4.2
平均在院日数	11.1	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
心不全	308
頻脈性不整脈	304
狭心症、慢性虚血性心疾患	284
徐脈性不整脈	86
急性心筋梗塞(統廃性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞	86
閉塞性動脈疾患	83
睡眠時無呼吸	75
脳梗塞	50
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	38
その他の循環器の障害	21
全体	1,523

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	202
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	77
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	75
四肢の血管拡張術・血栓除去術	72
経皮的カテーテル心筋焼灼術 その他のもの	58
経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの	57
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	40
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 初回	24
経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	14
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの	11

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1333	190	1523	87.5%	375	24.6%

診療科名： 血液内科

-

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	42	6	5
平均患者数	0.1	0.0	0.0
平均在院日数	7.6	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
非ホジキンリンパ腫	2
骨髄異形成症候群	2
貧血（その他）	1
以下、余白	以下、余白
全体	5

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
5	0	5	100.0%	1	20.0%

診療科名： 小児科

小児科の診療地域は岩国市・和木町・広島県大竹市が基本で、柳井市の一部、周防大島町の一部からも受診されます。岩国市・和木町は乳幼児から小児までの福祉医療の充実を図っている地域で、小児科医が行う2週間健診、1か月健診、和木町1歳健診、2023年4月開始岩国市1歳健診、おたふく予防接種2回公費助成のもと積極的に予防接種にも取り組んでいます。

外来は成長障害、内分泌、骨系統疾患、てんかんなどの慢性疾患、小児循環器疾患（先天性心疾患、川崎病、不整脈の治療）を行っています。発達障害/神経発達症の診療に関しては、心理検査、脳波・MRIなどの検査と、外来リハビリで作業・音楽・言語療法を施行しています。

1年間の入院は 1型糖尿病4名、急性脳症5名他けいれん性疾患22名、川崎病15名、腎疾患14名、入院を要するアナフィラキシー4名、酸素・呼吸管理を要するRSウイルス感染32名、ヒトメタニューモウイルス肺炎12名、Covid-19感染/感染疑い64名、NICU入院は131名。

Covid-19は新生児疑い例から乳児・小児例の入院治療も小児科担当で行っています。出産後NICUの母児面会も感染対策に留意し持続して行っています。

脳低体温療法が必要な新生児例は総合周産母子センターと、外科的/集中管理が必要な心疾患は小児心臓血管外科専門施設と連携して診療を行っています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,589	473	469
平均患者数	12.5	1.3	1.3
平均在院日数	9.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	104
その他の感染症（真菌を除く。）	52
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	33
熱性けいれん	23
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	21
腎臓又は尿路の感染症	16
川崎病	15
ウイルス性腸炎	15
喘息	14
ヘルニアの記載のない腸閉塞	9
全体	404

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
新生児仮死蘇生術 仮死第1度のもの	4
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	3
新生児仮死蘇生術 仮死第2度のもの	2
幽門形成術（粘膜外幽門筋切開術を含む。）	1
小児創傷処理（6歳未満） 筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5cm以上5cm未満）	1
皮膚切開術 長径10cm未満	1
気管切開術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
177	227	404	43.8%	45	11.1%

診療科名： 小児循環器科

重症先天性心疾患の手術までの管理、新生児～学童期の先天性・後天性心疾患のフォロー、不整脈の診断と保存的治療、産科から紹介される胎児心エコーなどに携わっています。小児科スタッフの教育とともに、心エコー診断、呼吸循環管理、薬物療法、手術適応の判断を行います。川崎病は毎年平均30名程度が入院しますが、小児循環器科主導で小児科と協同して、冠動脈病変を的確に評価し治療方針を決定します。急性期後の外来フォローは、小児循環器科が行います。当院では、心疾患を合併する重症の基礎疾患症例の場合、積極的に家族とともに過ごして頂く方針です。その際の在宅のサポートを中心になって行っています。学校心臓検診の精査も小児循環器科が担っており、定期的な検査や治療を行っています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数	#DIV/0!	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	#N/A

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

診療科名： 外科

外科はスタッフ10名外科専攻医2名の12名で診療に当たっており、3列並列が可能となっております。2022年は乳腺を含めて手術件数が600件を超え、全体に対する腹腔鏡手術の割合は58%でした。また2022年は胃および大腸分野で内視鏡技術認定を取得し、本年も胃で1名が加わり計3名取得となりました。これにより大腸は2022年から胃は本年からロボット手術を開始しました。胃は今年から始まった胃癌学会施設認定も受けました。これで当院では泌尿器科から始まり、胃・大腸のロボット手術を開始し、胸部外科や肝胆膵分野も始めるとなるとロボットの取り合いも危惧される状況となっております。

当科では若手の教育にも重点を置いております。学会発表は何度も予行を行い、毎年何らかの優秀演題に選ばれております。またヘルニアや虫垂炎などは勿論の事、外科専攻医には消化器外科専門医の受験を考慮した症例の選択を行っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	12,748	1,064	1,149
平均患者数	34.8	2.9	3.1
平均在院日数	11.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
乳房の悪性腫瘍	137
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	137
胃の悪性腫瘍	125
直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	111
ヘルニアの記載のない腸閉塞	91
胆嚢炎等	73
鼠径ヘルニア	70
食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	68
虫垂炎	65
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	36
全体	1,154

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	88
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	55
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	36
ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	31
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	30
腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術	27
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	21
乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	20
内視鏡的胆道ステント留置術	17
結腸切除術 全切除、垂全切除又は悪性腫瘍手術	17

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1025	129	1154	88.8%	96	8.3%

診療科名： 胸部外科

胸部外科では、肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの呼吸器に関する疾患に対する、手術を中心とした診療を行っています。今年度は呼吸器外科専門医2名と、レジデント1名の3人体制です。昨年度の手術件数は238件で、山口県内ではトップクラスの数になります。手術だけでなく学術活動も行っており、1年間で15回の学会発表と5報の論文（4報は英文）発表もいたしました。今年度は全国的に広がってきている単孔式胸腔鏡下手術および肺悪性腫瘍に対するロボット支援下手術の導入を目指し、日々最先端の技術を提供出来るよう研鑽しております。山口県東部から広島県の一部の地域の外科的介入が必要な呼吸器疾患の基幹となるよう精進してまいります。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,852	312	320
平均患者数	7.8	0.9	0.9
平均在院日数	9.0	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	164
気胸	44
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	24
肺・胸部気管・気管支損傷	15
胸郭・横隔膜損傷	10
胸水、胸膜の疾患（その他）	10
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	9
呼吸器系の良性腫瘍	8
縦隔の良性腫瘍	6
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	4
全体	317

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	65
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	37
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	24
胸腔鏡下膿胸掻爬術	18
胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの）	17
胸腔鏡下試験切除術	14
胸腔鏡下肺切除術 部分切除	10
肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	6
胸腔鏡下肺縫縮術	5
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	5

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
280	37	317	88.3%	38	12.0%

診療科名： 整形外科

整形外科専門医6名で診療を行っています。外来診療は月曜、火曜、木曜日で水曜日、金曜日は手術日となっています。平日夜間や休日は呼び出し担当医を決めて24時間、整形外科疾患に対応できるようにしています。毎朝急患、手術症例など整形外科カンファレンスを行い適切な治療が行えるよう検討しています。毎週火曜日には他業種を含めて全体でカンファレンスを行い情報を共有しています。

手術は外傷から膝、股関節の人工関節、脊椎手術と広範囲に渡り行っており2022年度は年間780例程度で年々増加傾向にあります。3次救急施設であるため重症の外傷も多く手術症例の約8割が外傷となっています。近年高齢者の大腿骨近位部骨折が人口の高齢化と共に増加傾向であり、早期手術が予後に影響するため他科と連携してできるだけ受傷後48時間以内に手術を行うように努めています。また手術後は急性期を過ぎて状態が安定しリハビリ治療が継続して必要な場合はご家族と相談の上、転院先を決めて治療を継続していきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	18,710	822	842
平均患者数	51.1	2.2	2.3
平均在院日数	22.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
股関節・大腿近位の骨折	191
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎	92
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	68
前腕の骨折	56
膝関節周辺の骨折・脱臼	38
肩関節周辺の骨折・脱臼	34
肘関節周辺の骨折・脱臼	32
足関節・足部の骨折・脱臼	31
骨盤損傷	26
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 頸部	21
全体	845

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	167
人工骨頭挿入術 肩、股	70
骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨	66
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方又は後	50
骨内異物（挿入物を含む。）除去術 前腕、下腿	48
骨折観血的手術 鎖骨、膝蓋骨、手（舟状骨を除く。）、足、指（手、足）その他	39
人工関節置換術 肩、股、膝	30
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方椎体固定	26
経皮的椎体形成術	24
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 椎弓切除	22

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
659	186	845	78.0%	224	26.5%

診療科名： 形成外科

当科は平成19年に開設され、眼瞼疾患（眼瞼下垂・眼瞼内反/外反など）、小児先天異常（耳介変形・多指症など）、外傷（顔面骨折・切断指再接着・熱傷など）、皮膚良/悪性腫瘍、癌切除後再建（頭頸部癌・乳癌・皮膚癌など）、瘢痕（肥厚性瘢痕・拘縮・ケロイド）、難治性潰瘍（術後創治癒遅延・足壊疽・褥瘡など）、その他（リンパ浮腫、顔面神経麻痺静的再建など）の治療を行っています。

特に岡山大学形成再建外科の特色であるマイクロサージャリーを受け継ぎ、他科の先生方と連携して悪性腫瘍や外傷、慢性創傷に伴う軟部組織欠損に対する再建手術や外傷などに伴う末梢神経・血管損傷の修復手術などに力を入れております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,081	123	126
平均患者数	3.0	0.3	0.3
平均在院日数	8.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	15
骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	15
眼瞼下垂	11
糖尿病足病変	9
その他の新生物	7
先天性耳瘻孔、副耳	7
皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	5
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	5
眼瞼、涙器、眼窩の疾患	5
膿皮症	4
全体	122

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2cm未満	8
皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	7
眼瞼下垂症手術 眼瞼挙筋前転法	7
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径4cm以上	6
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2cm以上4cm未満	4
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径6cm以上12cm未満	4
腋臭症手術 皮弁法	4
先天性耳瘻管摘出術	4
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径3cm以上6cm未満	4
眼瞼下垂症手術 その他のもの	4

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
105	17	122	86.1%	11	9.0%

診療科名： 脳神経外科

当科は脳神経外科医師9名（日本脳神経外科学会専門医5名、レジデント1名、後期研修医3名）の体制で日々の診療にあたっています。山口県東部のみならず広島県西部から島根県南部の広域において24時間365日脳神経外科の救急患者さんに対応できる唯一の施設です。年間入院患者数は約800人、年間手術件数は約400件あり中国四国地方において有数の施設の一つとなっています。常時1名の医師が緊急の呼び出しに対応し、24時間実施可能なCT、MRI、脳血管撮影装置などを完備した診療体制を整えています。主治医が一貫して外来診察、入院治療、手術、術後のフォローを行うことで患者さんとの信頼関係を築き、きめ細かな医療が提供出来る様に努めています。また当科医師9名による週4回のカンファレンスにおいて個々の患者さんの病状を十分検討したうえで治療方針や手術方法を決定しています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	16,162	801	822
平均患者数	44.2	2.2	2.2
平均在院日数	19.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
脳梗塞	227
頭蓋・頭蓋内損傷	134
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	114
脳血管障害	66
未破裂脳動脈瘤	51
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	28
てんかん	27
脳腫瘍	26
頸椎頭髄損傷	25
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	15
全体	796

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	76
経皮的脳血栓回収術	33
脳血管内手術 1箇所	22
頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	18
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方又は後側方固定	15
経皮的脳血管形成術	15
水頭症手術 シヤント手術	13
経皮的頸動脈ステント留置術	12
動脈血栓内膜摘出術 内頸動脈	12
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの） 脳内のもの	12

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
606	190	796	76.1%	324	40.7%

診療科名： 心臓血管外科

当科では岩国市を含む山口県東部を中心に、広島県西部、島根県南部と幅広い地域からの患者さんを受け入れています。近年高齢化に伴い大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症等の弁膜症が増加しており、安全な医療が提供できるよう日々努力しています。手術室に据置型の血管造影装置を結合させたハイブリッド手術室を有し、手術中に血管造影検査を行うことが可能で、胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対し従来型手術はもちろんのこと、より低侵襲なステントグラフト治療も行っています。2022年は年間269例の手術を行いました。うち心臓・胸部大血管手術は92例で、腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術は25例、ステントグラフト治療は胸部・腹部あわせて31例行いました。また下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建術や急性動脈閉塞に対する緊急血栓除去手術、透析で用いる内シャント造設術も行なっています。下肢静脈瘤に関しては血管内高周波カテーテル治療を導入しており、ストリッピング術・結紮術とともに適応に合わせて治療を行っています。全ての患者さんに対し、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士等、循環器診療に携わるスタッフが連携して総合的かつ包括的な医療を提供することで、手術を安全に受けていただくだけでなく、退院後も質の高い生活が維持できる体制をとっています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	5,610	334	340
平均患者数	15.3	0.9	0.9
平均在院日数	16.6	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	70
非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	58
狭心症、慢性虚血性心疾患	55
大動脈解離	33
徐脈性不整脈	29
静脈・リンパ管疾患	28
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	25
破裂性大動脈瘤	7
手術・処置等の合併症	7
閉塞性動脈疾患	6
全体	332

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
弁置換術 1弁のもの	31
ペースメーカー交換術	25
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 腹部大動脈	21
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。） 腹部大動脈（その他のもの）	20
末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの	19
下肢静脈瘤血管内焼灼術	18
大伏在静脈除去術	11
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 胸部大動脈	9
冠動脈、大動脈バイパス移植術 2吻合以 上のもの	9
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。） 上行大動脈 その他のもの	9

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者 割合	全体のうち、 救急搬送数	救急搬送 割合
316	16	332	95.2%	21	6.3%

診療科名： 小児外科

-

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	107	47	45
平均患者数	0.3	0.1	0.1
平均在院日数	2.3	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
男性生殖器疾患	9
鼠径ヘルニア	9
停留精巣	8
閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	6
先天性水腎症、先天性上部尿路疾患	5
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	2
その他の消化管の障害	2
直腸肛門奇形、ヒルシュスプルング病	1
虫垂炎	1
尿道・性器の良性腫瘍	1
全体	44

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	18
停留精巣固定術	9
ヘルニア手術 臍ヘルニア	6
経尿道的尿管狭窄拡張術	2
外尿道腫瘍切除術	1
経尿道的尿管ステント拔去術	1
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
36	8	44	81.8%	0	0.0%

診療科名： 皮膚科

皮膚科では皮膚に関連する疾患全般の診療を行っています。アトピーや水虫など皆様もご存じの疾患から、細菌感染症やウイルス感染症など時に入院も必要となる疾患、皮膚腫瘍など手術の必要な疾患、乾癬や自己免疫性水疱症といった皮膚科特有の疾患など様々です。アトピー性皮膚炎や乾癬、円形脱毛症などの特定の皮膚疾患では近年分子標的薬が注目を集めています。当院では他院と連携を取りながらこのような最新治療を受けることが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。患者様のお悩みに寄り添った医療を目指しています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,089	64	79
平均患者数	3.0	0.2	0.2
平均在院日数	15.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
膿皮症	32
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	10
帯状疱疹	6
皮膚の良性新生物	5
糖尿病足病変	3
外陰の悪性腫瘍	3
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	2
水疱症	2
敗血症	2
股関節・大腿近位の骨折	1
全体	77

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	11
女子外性器悪性腫瘍手術 切除	2
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径6cm以上12cm未満	2
皮膚切開術 長径10cm未満	1
全層植皮術 25cm ² 未満	1
骨切り術 肩甲骨、上腕、大腿	1
骨腫瘍切除術 鎖骨、膝蓋骨、手、足、指（手、足）その他	1
皮膚切開術 長径10cm以上20cm未満	1
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径12cm以上	1
全層植皮術 25cm ² 以上100cm ² 未満	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
69	8	77	89.6%	11	14.3%

診療科名： 泌尿器科

山口県東部地域および近郊医療圏域の患者さんに対して、個々の要望や価値観を取り入れながら都市部と遜色のない診療レベルの確保を目指しています。診療範囲は尿路悪性腫瘍を中心に手術療法およびがん薬物療法、終末期緩和医療を行っています。また、良性疾患に対しては尿路結石症、尿路感染症、骨盤臓器脱に対しても治療を行っています。泌尿器科スタッフは5名で、外来・入院ともにチーム主治医制による診療を行っています。

【2022年実績】ホルミウムヤグレーザー手術 88 件、ロボット支援手術 139件、学会・セミナー発表13件。

【これからの目標】病診連携の充実、逆紹介の向上。低侵襲手術の提供による市民へのより良い医療の提供。スタッフの技術レベル向上と後期研修医への教育の充実を目標にしています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	6,852	694	724
平均患者数	18.7	1.9	2.0
平均在院日数	9.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
前立腺の悪性腫瘍	166
膀胱腫瘍	166
上部尿路疾患	94
腎盂・尿管の悪性腫瘍	50
下部尿路疾患	41
腎腫瘍	40
前立腺肥大症等	36
腎臓又は尿路の感染症	27
男性生殖器疾患	16
敗血症	15
全体	727

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	130
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	96
経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	58
経尿道的尿管ステント留置術	46
経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術 ホルミウムレーザー又は倍周波数レーザーを用いるもの	33
膀胱結石、異物摘出術 経尿道的手術	20
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	18
膀胱内凝血除去術	12
腹腔鏡下仙骨腔固定術	11
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） 原発病巣が7センチメートル以下のもの	10

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
678	49	727	93.3%	46	6.3%

診療科名： 産科

令和4年の分娩数は297件と令和3年の318件と比べ減少となりました。そのうち帝王切開件数は58件で帝王切開率は19.5%です。当院では、妊婦の希望があり医学的に問題がなければ、帝王切開後の経膈分娩（試験分娩TOLAC）、双胎の経膈分娩、経産婦の骨盤位分娩を行っております。令和4年の帝王切開後経膈分娩（VBAC）は17例中8例（47.1%）、双胎分娩5例中経膈分娩は2例（40%）、骨盤位13例中経膈分娩は1例（7.1%）でした。また、医学的適応や本人の希望により硬膜外麻酔による無痛分娩にも対応しています。現在常勤医3名、後期研修医1名で診療にあたっておりますが、後期研修医には他院ではあまり経験できない上記のような症例を経験してもらえればと思います。2回の学会発表、2回の講演を行いました。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,286	337	340
平均患者数	6.2	0.9	0.9
平均在院日数	6.8	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
分娩の異常	61
胎児及び胎児付属物の異常	50
早産、切迫早産	26
妊娠中の糖尿病	24
その他の感染症（真菌を除く。）	20
妊娠高血圧症候群関連疾患	12
産褥期を中心とするその他の疾患	11
妊娠合併症等	5
前置胎盤及び低置胎盤	4
流産	2
全体	220

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
帝王切開術 緊急帝王切開	38
帝王切開術 選択帝王切開	24
吸引娩出術	10
子宮双手圧迫術（大動脈圧迫術を含む。）	9
胎盤用手剥離術	4
子宮頸管縫縮術 シロツカー法又はラッシュ法	4
子宮内膜掻爬術	3
会陰（陰門）切開及び縫合術（分娩時）	2
膣壁尖圭コンジローム切除術	1
外陰・膣血腫除去術	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
272	57	329	82.7%	1	0.3%

診療科名： 婦人科

令和4年の手術件数は272件で令和3年の275件に比べ微減となりました。子宮体部の悪性腫瘍の件数が増加しています。現在常勤医3名、後期研修医1名で診療にあっております。最先端のことはできておりませんが、開腹手術、経膈的手術、腹腔鏡手術などの基本的な手技を後期研修医には習得していただければと思います。子宮頸癌の放射線治療は照射装置がないため他院への紹介しておりますが。その他の悪性腫瘍の治療は可能です。2回の学会発表を行いました。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,685	259	264
平均患者数	4.6	0.7	0.7
平均在院日数	6.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	73
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	40
卵巣の良性腫瘍	34
子宮の良性腫瘍	27
生殖器脱出症	19
流産	15
子宮内膜症	7
卵巣・卵管・広間膜の非炎症性疾患	6
異所性妊娠（子宮外妊娠）	6
子宮・子宮附属器の炎症性疾患	4
全体	259

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
子宮全摘術	30
子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	30
子宮頸部（腔部）切除術	22
子宮悪性腫瘍手術	18
子宮脱手術 腔壁形成手術及び子宮全摘術（腔式、腹式）	17
流産手術 妊娠11週までの場合 手動真空吸引法によるもの	15
子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 開腹によるもの	7
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	7
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	7
子宮内膜搔爬術	6

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
232	27	259	89.6%	12	4.6%

診療科名： 眼科

-

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	239	144	144
平均患者数	0.7	0.4	0.4
平均在院日数	1.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
白内障、水晶体の疾患	139
結膜の障害	3
以下、余白	以下、余白
全体	142

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	140
翼状片手術（弁の移植を要するもの）	3
水晶体再建術 眼内レンズを挿入しない場合	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
128	14	142	90.1%	0	0.0%

診療科名： 耳鼻咽喉科

1) 頭頸部腫瘍の手術 及び 放射線化学療法 喉頭癌、咽頭癌、舌癌、口腔癌、鼻副鼻腔癌、甲状腺癌、唾液腺癌などの頭頸部癌 その他の頭頸部良性腫瘍に対する手術
2) 慢性副鼻腔炎・好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下手術 (ESS : Endoscopic Sinus Surgery)
3) 慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎に対する耳科手術鼓室形成術や鼓膜形成術
4) 慢性扁桃炎・アデノイド肥大、声帯ポリープなどに対する咽頭・喉頭手術
5) 末梢性顔面神経麻痺（側頭骨内顔面神経減荷術）・突発性難聴
6) 急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、深頸部膿瘍などの重症感染症
7) 嚥下機能の評価（嚥下内視鏡）・嚥下改善手術・誤嚥防止手術

以上のような耳鼻咽喉科領域の幅広い疾患に対応しているが、特に頭頸部悪性腫瘍や好酸球性副鼻腔炎などの鼻科領域の症例を多く扱っている。

鼻科手術では磁場式ナビゲーションシステムを活用し手術合併症をおこさず安全な手術を行っている。

難病指定の好酸球副鼻腔炎に対しては副鼻腔単洞化手術の施行、抗体製剤（デュピクセント）等を適切に行いQOLの改善を目指している。

頭頸部腫瘍では良性疾患では神経温存等に留意しより安全な手術を行い、悪性腫瘍症例では切除再建をふくむ手術や術後補助療法を組み合わせて治療成績の向上をはかる。

また、再発転移症例でも免疫チェックポイント阻害剤と抗がん剤を組み合わせた化学療法や分子標的剤を適切に使用しQOLおよび予後改善を目指している。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,639	374	382
平均患者数	12.7	1.0	1.0
平均在院日数	12.3	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
頭頸部悪性腫瘍	74
甲状腺の悪性腫瘍	32
慢性副鼻腔炎	31
扁桃、アデノイドの慢性疾患	21
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	21
顔面神経障害	20
前庭機能障害	19
声帯の疾患（その他）	18
慢性化膿性中耳炎・中耳真珠腫	17
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	15
全体	376

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡下鼻・副鼻腔手術IV型（汎副鼻腔手術）	33
喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの	25
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 片葉のみの場合	21
口蓋扁桃手術 摘出	19
扁桃周囲膿瘍切開術	11
甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	8
鼓室形成手術 耳小骨温存術	8
耳下腺腫瘍摘出術 耳下腺浅葉摘出術	7
気管切開術	7
鼻中隔矯正術	7

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
354	22	376	94.1%	19	5.1%

診療科名： 救急科

救急科は2017年4月に発足しました。現在、医師2名、診療看護師1名の3名のスタッフで活動しており、平日の時間内診療は医師1名と診療看護師1名が救急外来を担当し、医師1名がICU専従として勤務する体制となっています。救急外来は多数の診療科が使用し、研修医の教育の場にもなっております。多くの救急車、ウォークイン患者を受け入れるため、各科の医師がスムーズに診療、教育できる環境と体制を作っていくことを目標に、日々改善に取り組んでいます。各科の協力により、救急車受け入れ台数は山口県内ではトップクラスを維持しております。近年は搬送される患者のほとんどにスクリーニング的にエコー診療を取り入れており、病状の早期把握はもちろんですが、研修医教育にも役立っています。また、エコーのコスト算定が増え、病院収入にもプラスになっています。今後はICUや一般病棟でもエコーを使用した早期診断を普及させることで、急変の予防や入院期間の短縮につながるものと期待しております。各科の診療科のご協力を得て今後も研鑽してまいります。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	729	61	82
平均患者数	2.0	0.2	0.2
平均在院日数	10.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
体温異常	24
薬物中毒（その他の中毒）	24
詳細不明の損傷等	4
脳の障害（その他）	4
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	3
腎臓又は尿路の感染症	3
アルコール性肝障害	2
頭蓋・頭蓋内損傷	2
その他の感染症（真菌を除く。）	2
間質性肺炎	1
全体	78

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
膀胱内凝血除去術	2
耳介血腫開窓術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
34	44	78	43.6%	64	82.1%

診療科名： 放射線科

放射線科は、読影（画像診断）・IVR・放射線治療の3部門の診療を行っています。現在、常勤医3名（IVR/読影1名、読影/1名、治療1名）・非常勤医1名（読影）となっています。2021年度に、CT（Aquilion Prime SP：Canon）・DSA（Azurion 7：PHILIPS）装置を更新しました。読影は、CT・MRI・RI・PET・単純撮影の所見を、可能な範囲で作成しています。2022年度はCT 7328件・MRI 2856件・RI 379件・PET 656件・単純撮影 996件で、合計 12215件レポートを作成しています。休日・時間外は待機当番制をひき、随時読影依頼に対応しています。

上部消化管透視の手技・読影も行っています（2022年度は9件）。IVRは、2022年度は89件施行しています。出血の止血、肝TACE、末梢動脈瘤の塞栓、AVFの塞栓、BAE、SVCステント留置、各種生検・ドレナージ、VATSマーカー挿入、治療用マーカー挿入など、胸腹部領域の手技を幅広く手掛けています。緊急の際は随時対応しています。治療は、岩国市では唯一の放射線治療施設であり、岩国市内のみならず山口県東部・広島県西部からも広く患者様をご紹介いただき治療しています。2022年度は186人の新規患者様をご紹介いただき、再治療の患者様を合わせると計212件の症例を治療しています。対象となる疾患は癌・肉腫および一部の良性疾患（甲状腺眼症、ケロイドなど）です。放射線治療には様々な照射法・照射技術があり、当院では通常照射のほか、肺や肝臓に対する定位放射線治療や呼吸移動が大きい症例などに対する息止め照射を行っております。強度変調放射線治療（IMRT）や脳・脊椎への定位放射線治療については、医師数や機械精度の制限により施行しておりません。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数	#DIV/0!	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	#N/A

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

診療科名： 麻酔科

2022年度の総手術件数は3921症例、その内、麻酔科管理症例は2943症例件でした。2022年4月より市瀬仁先生が、12月より西公香先生が勤務となっております。常勤6人と関連病院から診療支援を頂いて臨床を支えています。研究面では、学会発表3演題です。教育面では、初期研修医1年目は、15人、2年目は6人の麻酔科研修を担当致しました。救急救命士の気管挿管病院実習は3人を、ビデオ喉頭鏡実習は9人を担当しました。初期研修医教育、地域医療に貢献しております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数	#DIV/0!	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	#N/A

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

診療科名： 病理診断科

2022年度、病理診断科は常勤医師2名、臨床検査技師4名の体制で業務を行っている。件数は組織診断が5426件(うち迅速診断594件)、細胞診断3785件、剖検数6体である。

当院は平成30年に癌ゲノム医療連携病院に指定された。病理検体から遺伝子情報を抽出し治療に活かす癌ゲノム医療が全国で始まっており、当科においても体制整備を整え、岡山大学病院とのウェブミーティング(エキスパートパネル)に定期的に参加し、がん診療に貢献している。病理検体を使って行う検査のうち、治療薬につながる検査が増加しており、スムーズに正確な結果を得られるように努力している。

臨床検査科では、国際規格「ISO 15189」認定を取得し高いレベルの精度管理を行っている。病理診断科においても手順マニュアルの整備や改善を行い、精度の高い診断が行えるように継続的に努力している。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	#N/A	#N/A	#N/A
平均患者数	#N/A	#N/A	#N/A
平均在院日数	#N/A	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	#N/A

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

診療科名： 腎臓内科

慢性腎臓病は慢性糸球体腎炎のような腎臓に限局した疾患のみならず高血圧症や糖尿病、全身性エリテマトーデス、ACPKD（常染色体優性多発性嚢胞腎）といった全身疾患にも続発します。最近では睡眠時無呼吸症候群に続発した腎機能低下症例も多数経験し、ますます総合内科的な診療対応の重要性を認識しています。なお当院の現状では維持透析症例における外来透析は対応できません。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,094	142	155
平均患者数	5.7	0.4	0.4
平均在院日数	14.1	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	78
敗血症	10
急性腎不全	7
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	7
腎臓又は尿路の感染症	5
紅斑症	4
皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	3
心不全	3
睡眠時無呼吸	2
血液疾患（その他）	2
全体	156

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	2
全層植皮術 25cm ² 以上100cm ² 未満	2
分層植皮術 100cm ² 以上200cm ² 未満	1
椎間板摘出術 後方摘出術	1
経尿道的尿管ステント留置術	1
腹腔鏡下仙骨腔固定術	1
末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
143	13	156	91.7%	28	17.9%

【各部門活動報告】

① 薬剤部の紹介、特徴

薬剤部23名(定員26名)、非常勤助手6名

調剤業務、製剤業務、抗がん剤や TPN の無菌調製業務、医薬品情報管理業務、薬剤管理指導を中心とした病棟業務を行い、より安全な薬物療法の提供に寄与している。昨年度末より休止していた病棟薬剤業務実施加算を再開すると共にチーム医療に力を入れている。

② 令和4年度の実績

		2020年度	2021年度	2022年度
注射処方せん枚数	入院枚数	235,018	227,275	233,443
	外来枚数	18,544	20,604	21,484
処方せん枚数	入院	117,528	116,328	117,152
	外来院内	1,206	1,562	1,170
	外来院外	54,700	55,126	56,128
院外処方せん発行率		97.8%	97.2%	98.0%
薬剤管理指導料	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	4,667	3,387	4,608
	請求件数内訳2. 1以外	8,979	7,114	9,453
	請求件数(上記合計)	13,646	10,501	14,061
	麻薬加算件数	282	263	302
	薬剤師1人当請求数	62.3	64.8	67.9
入院時支援加算請求件数		35	139	363
退院時薬剤情報管理指導料件数		1,643	1,262	1,420
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1件数	25,374	19,647	22,230
	持参薬確認数	12,256	3142	13,106
	処方支援・診療支援数	1,871	1,618	867
	薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数	961	1,034	375
無菌製剤処理料1、2	1の閉鎖式接続器具を使用した請求件数	316	211	113
	1の上記以外の請求件数	6,601	6,932	6,176
	2 請求件数	6,917	7,143	6,289
薬剤情報提供料	請求件数	544	659	447
外来化学療法加算	外来腫瘍化学療法診療料 1 (抗悪性腫瘍剤投与)	4,167	4,725	4,621
	連携充実加算 請求件数	19	0	0
外来患者服薬指導等	自己注射等指導件数	67	54	49
	サリドマイド及びその誘導体登録等指導件数	168	183	14
	上記以外	3,306	3,472	3,669
プレアポイド報告数		6	8	25

2023 年 4～5 月:病棟常駐加算の算定未取得

臨床検査科

<スタッフ>

臨床検査科長・・・安光 正治

臨床検査技師長・・・黒田 和彦

副臨床検査技師長・・・後藤 象悟

主任臨床検査技師・・・6名

常勤臨床検査技師・・・16名、非常勤臨床検査技師・・・3名、事務・・・2名

<2022年度検査科目標>

1. 山口県東部医療圏の高度急性期・急性期医療基幹病院検査室の技師としての役割を果たす。
2. 品質システムの運用・維持・改善を行い顧客ニーズに合った質の高い臨床検査サービスを提供する。
3. 業務の標準化・効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。
4. コミュニケーションを密にし、意見のでやすい職場環境をつくる。

<臨床検査科紹介>

臨床検査科は臨床検査科長を中心に27名の臨床検査技師と2名の事務員で構成されており、検査体制としては平日時間内のルーチン業務と時間外の緊急検査および緊急心臓カテーテル検査、SARS-CoV-2迅速検査に365日、24時間対応しています。また、岩国病院附属看護学校の健康行動論Ⅱ（臨床検査）についての講義及び試験や山陽女子短期大学の臨地実習生を2名受け入れました。

また、日々の内部精度管理を徹底しており、毎年外部精度管理（医師会、日本臨床衛生検査技師会、山口県臨床検査技師会、各種メーカー）へ参加し、精度を保つように努力をしています。

<各種認定技師>

細胞検査士3名、認定輸血検査技師1名、超音波検査士6名（消化器2、循環器4、体表臓器1、血管1）、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名、二級臨床検査士3名（血液学、病理学、生理、臨床化学、免疫血清学）、緊急検査士4名、認定サイトメトリー技術者1名が在籍し、日夜研鑽を行っています。

<検査実績（2022年度）>

検体検査	入院	外来	生理機能検査	入院	外来
尿・便等検査	15,014	35,106	心電図検査等	2,582	11,333
髄液・精液等	123	57	脳波検査等	475	718
血液学的検査	113,011	131,008	呼吸機能検査等	445	3,732
生化学的検査	594,202	797,660	前庭・聴力機能検査等	0	0
内分泌学的検査	8,835	27,567	眼科関連機能検査等	0	0
免疫学的検査	68,206	154,282	超音波検査等	2,056	3,827
微生物学的検査	15,896	14,533	その他	17	2
病理組織検査	4,482	3,474	ホルター心電図等解析件数	213	521
細胞診検査	935	2,936			
機能検査	120	562			
合計	820,824	1,167,185	合計	5,788	20,133

<血液製剤取扱量>

血液製剤取扱件数	
入庫数	5,315
出庫数	5,181
輸血済み血液製剤数	5,039
血液製剤廃棄率(%)	1.24

<病理解剖>

病理検査関連	
病理解剖件数	6
病理組織ブロック数	18,107
免疫染色枚数(病理)	2,489
特殊染色枚数(病理)	2,593

<2022年度新規購入機器>

生化学免疫部門

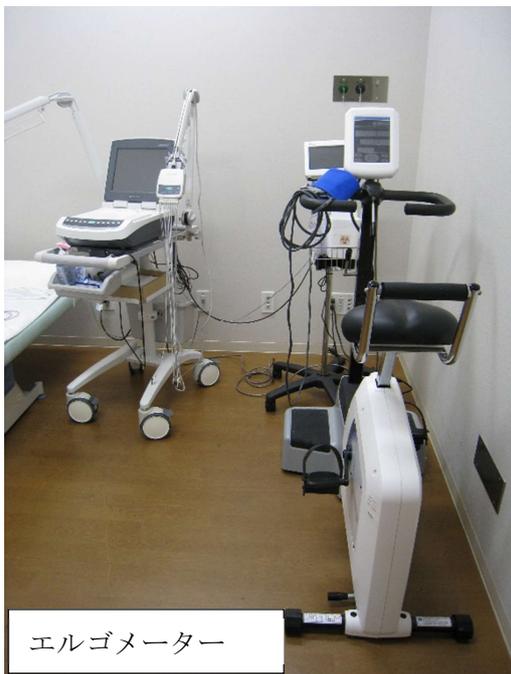
生化学免疫自動分析装置
Alinity c2i (生化学モジュール2台+免疫モジュール1台) 2セットを2022年4月末日に課金方式により稼働させ、老朽化した機器の更新を行った。



Alinity c2i

生理検査部門

2022年5月下旬にトレッドミルを更新し、エルゴメーターも導入した。



エルゴメーター



トレッドミル

<業績（2022 年度）>

学会発表・講演会

瀧口淳子	機器更新による業務効率化について	第 10 回国立病院臨床検査技師協会中国四国支部学会	2022/9/17 WEB
村本将太	応用編 その 1	令和 4 年度中国四国グループ臨床検査技師実習技能研修Ⅲ（細胞診）	2022/11/17 WEB
後藤象悟	基礎を学んで自信をつけよう	令和 4 年度中国四国グループ臨床検査技師実習技能研修（輸血）	2022/12/3
平岡健吾	QMS へ発展させるために（法改正要求事項と国際規格の要求事項の違い）	令和 4 年度中国四国グループ臨床検査技師実習技能研修（分析）	2023/1/13
村本将太	上部尿路癌における細胞診断の補助手法としての Ki-67,p53 免疫染色の有用性	第 108 回山口県臨床細胞学会学術集会	2023/3/5

<2022 年度取り組み>

2022 年 4 月に日本適合性認定協会の ISO 15189 認定を取得後、2022 年 12 月の初回定期サーベイランスに向けて、内部監査、マネジメントレビュー会議、SOP の改定等の品質マネジメントシステムの維持を精力的に行い、初回サーベイランス審査を受けた。審査では 14 件の不適合を検出されが、是正処置を施し、2023 年 2 月に無事認定の維持が承認された。

（文責：黒田和彦）

放射線科 令和4年度年報

放射線科の紹介

放射線科は画像診断部門と放射線治療部門で構成され、診療放射線技師 23 名、事務助手 2 名が所属しています。画像診断部門では高度な診断機器を使用し有用な画像を提供し、放射線治療部門ではがん治療として根治的な治療から緩和を目的とした治療まで行っています、診療放射線技師においても認定資格所得など自己研鑽し日々技術を高めています

人員構成

診療放射線技師長 (1 名)
副診療放射線技師長 (2 名)
主任診療放射線技師 (6 名)
診療放射線技師 (14 名)
事務助手 (2 名)

主な保有機器

一般撮影装置 (4 台)
乳房撮影装置 (1 台)
透視撮影装置 (2 台)
CT 撮影装置 (80 列 1 台、320 列 1 台)
MRI 撮影装置 (1.5T1 台、3.0T1 台)
血管撮影装置 (バイプレーン 3 台、手術室ハイブリッド 1 台)
PET/CT 装置 (1 台)
SPECT 装置 (1 台)
骨密度測定装置 (1 台)
放射線治療装置 (1 台)

放射線関連有資格数

第一種放射線取扱主任者 (2 名)
作業管理測定士 (1 名)
衛生工学衛生管理者 (2 名)
放射線治療専門放射線技師 (2 名)
医学物理士 (2 名)
検診マンモグラフィ撮影認定技師 (1 名)
肺がん CT 検診認定技師 (2 名)
X 線 CT 認定技師 (3 名)
超音波検査士 (1 名)

医療情報技師 (2名)
 医療画像情報専門技師 (2名)
 放射線管理士 (2名)

令和4年度放射線部門目標

1. 質の高い放射線医療の提供として画質を担保しつつ医療ひばく低減、医療安全対策の推進
2. ハラスメントのない快適な職場環境づくりとしてコミュニケーションの活性化
 部署内でのチーム医療の推進
3. 地域医療への貢献として地域連携室との連携強化、地域研修会等への積極的参加
4. 働き方改革の推進、仕事の質・生産性の向上として年次休暇の取得推進
 チーム医療、多職種連携による負担軽減

これら部門目標の下に医療被ばくの低減から線量管理、自己研鑽として専門資格の取得を推進し、より質の高い医療を提供いたします

さらに2021年10月1日から施行された診療放射線技師法改正による業務拡大においても基礎研修や実技研修に積極的に参加し、RI検査では診療放射線技師が静脈路確保等の手技を行っています

業務実績（令和4年度）

総件数	一般撮影	乳房撮影	透視撮影	血管造影
83347	47373	876	1091	2095

CT	MRI	RI	PET	放射線治療
24218	7535	379	656	3853

学術実績

- 2022/9/10 第41回 山口県放射線治療研究会
 「治療プランのチェックと発見したエラー」 山根 明哲
- 2022/10/24 令和4年度第1回岩国地区講習会
 「画像等手術支援加算：K939取得の取り組み」 三好 雄大
- 2023/2/23 令和4年度中国四国グループ診療放射線技師スキルアップ研修
 「放射線治療診療開始前支援報告」 山根 明哲
 「スプレッドシートを使用したMU校正」 山根 明哲
 「IGRTガイドライン2019について」 山根 明哲

リハビリテーション科

リハビリテーション科医長 生田陽彦
理学療法士長 日浦雅則
作業療法士長 川北妃呂恵

令和4年度はリハビリテーション科医師1名、理学療法士18名、作業療法士8名、言語聴覚士4名の合計31名体制で臨床業務にあたりました。

1. 当科の取り組み

1) 診療

当科は脳血管リハビリ I、廃用症候群リハビリ I、運動器リハビリ I、呼吸器リハビリ I、心大血管リハビリ I、がん患者リハビリの施設基準を取得しています。

処方については、様々な診療科から受けていますが、脳神経外科からが最も多く全体の22%、次いで循環器内科16%、呼吸器内科14%、整形外科12%、外科8%、胸部外科6%、消化器内科5%、心臓血管外科5%、内科5%、泌尿器科3%、小児科1%、その他救急科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、肝臓内科、婦人科、皮膚科、形成外科からの処方に対してリハビリを実施しています。

リハビリ開始時期については、発症・手術直後からの早期離床に努め、心身の機能回復および廃用・合併症予防に取り組んでいます。医師に指示によっては手術前から介入することもあります。いずれの場合もリハビリテーション総合実施計画書を用いて丁寧に説明し同意を頂くようにしています。

診療にあたっては、療法士および対象者の手洗い・手指消毒、必要に応じた感染防護具の着用、入院患者と外来患者のゾーニング、使用場所・機器のこまめな消毒など、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して診療を継続しています。

その他、RSTやNST、認知症ケア委員会、緩和ケア委員会、褥瘡対策委員会などの院内活動にも積極的に参加し、チーム医療を実践しています。

2) 学術活動（学会発表）

・第31回山口県理学療法学会 大腿骨骨幹部骨折を受傷し早期から膝関節可動域に対して介入したが可動域の改善に難渋した症例

2. 部門紹介

1) 理学療法

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある方に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にあります。日常生活動作の改善を図り、最終的にはQOL（生活の質）の向上を目標としています。

2) 作業療法

作業療法とは、作業（仕事・日課・遊び・休息等の人が営むすべての活動）をできるようにすることで生活の充実を図るものです。対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や

環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている方で、当院では主に日常生活動作、高次脳機能障害、上肢の運動機能の向上を目的として実施しています。

3) 言語聴覚

言語聴覚療法はことばによるコミュニケーションや摂食・嚥下に問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援することです。当院では、摂食・嚥下の問題に対する処方が増加しており、他職種と共同で治療を提供しています。

3. 診療実績

		2020年度	2021年度	2022年度
脳血管 I	単位	31722	30361	27031
廃用症候群 I	単位	12125	13830	14153
運動器 I	単位	15037	14977	17040
心大血管 I	単位	13752	13316	14389
呼吸器 I	単位	9882	12186	14081
がん患者	単位	9469	8500	5932
初期加算	件	41866	42260	42561
早期加算	件	62372	64261	65988
摂食機能療法	件	1357	2274	1904
リハビリ総合実施計画評価料	件	4243	4195	4352
退院時リハビリ指導料	件	668	685	799

栄養管理室

栄養管理室長 別府 成人

(1)部門の紹介、特徴

患者様の様々な疾病に対し、安全かつ満足して頂ける食事を提供するために、新調理システムを導入しています。また病状等により喫食率が低下している患者様に対し、患者訪問などにより迅速に対応し、栄養状態の改善に努めています。

チーム医療(NST や各種カンファレンス等)においては積極的に参加し、栄養管理の重要性を認め啓発活動を推進しています。食習慣の乱れ又は歪みによる生活習慣病等については、患者の食習慣の是正に向けて、栄養食事指導等を実施しています。尚、集団指導は、コロナ禍により開催を中止致しております。

《スタッフ (4月1日)》

栄養管理室長 1名,主任栄養士 1名,栄養士 5名,調理師 3名,調理員 (非常勤) 4名

(2)年度の実績

			令和2年度	令和3年度	令和4年度
栄養食事指導件数	入院	加算	1273	1824	1979
		非加算	264	175	143
	外来	加算	393	441	450
		非加算	40	25	49
集団栄養指導件数	心臓病教室	加算	0	0	0
	糖尿病教室	非加算	0	0	0
	母親教室	非加算	13	0	0
栄養サポートチーム件数		加算	362	343	164

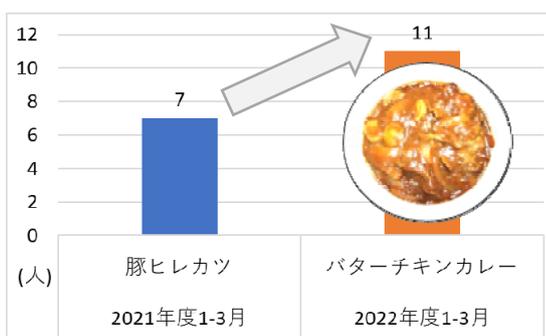
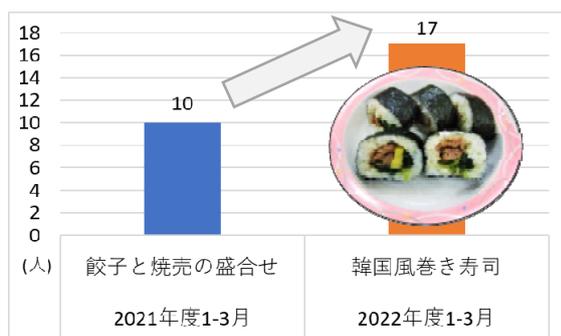
(3)取り組み

① ～選択メニューをリニューアルしました 第2弾～

選択メニューとは、通常メニューとは別に追加の料金(+50円)を頂き提供させていただくメニューのことです。(※食事の種類によって選択メニューが選択できない食事があります)

患者様に喜んでいただけるよう、2021年度より新メニューを追加して選択メニューの更新を行った所、選んで下さる患者様が増加しました。

そこで、前年度に引き続き 2022年度も新メニューとして、今まで選ぶ患者様が少なかったメニューを人気料理である“カレー”と“巻き寿司”をアレンジした「バターチキンカレー」と「韓国風巻き寿司」へ変更しメニューの更新を行ったところ、選んでくださる患者様が増加しました。



②学会発表実績

第 26 回日本病態栄養学会年次学術集会

「食道癌術前における栄養介入の効果についての検討(第 1 報)」 福田 優香

第 76 回国立病院総合医学会

「カテーテルアブレーション治療患者における背景因子と塩分摂取量の関連についての検討」

竹中 理恵

日本糖尿病学会中国四国地方会第 60 回総会

「糖尿病を合併したカテーテルアブレーション治療患者の食習慣と背景因子についての検討」

竹中 理恵

部署名 5階西病棟(救命救急センター) 看護師長名 木戸 優子

●はじめに

令和元年6月1日より、救命救急入院料1から急性期一般入院料1となったが、夜間の緊急入院や緊急の重症患者の受入れやICUの後方病棟としての役割を担っているため、夜間は4:1の看護師配置(24床中16床使用として)となっている。

救急外来の応援勤務や月・水・金曜日の透析看護も行っており、多発外傷や脳血管障害、心不全、急性腹症、呼吸不全等様々な疾患に対応できるよう、勉強会やOJTで看護の知識、技術の向上に努めている。緊急で入院した患者・家族の気持ちに寄り添いながら、安全・安心な看護の提供を目指している。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップナーシングシステム)
- ・夜勤体制：3交替制(4人夜勤)
- ・有資格者：救急看護認定看護師1名

【院内認定】がん化学療法 7名 消化器内視鏡 1名 PET-CT 1名

●部署運営状況

病床稼働率(24床)	46.6%
平均在院日数	3.1日/人
平均入院患者数	12.4人/日
重症度、医療・看護必要度	68.8%
手術件数	172件
透析件数(延べ件数)	515件(月42.9件)

勤務帯別新規入院患者数の割合



●2022年度の活動、取り組み内容、成果

- 救命救急センターとしての看護の質向上を目指し勉強会を実施した。認定看護師が講師となりフィジカルアセスメント、急変シミュレーションを行い、救急看護の実践に繋がった。
- 患者・家族に寄り添う看護が出来るよう、倫理カンファレンスを行った。患者・家族の思いや要望を聞き、医師やMSWなど多職種と連携を取り個々に対応を行っていった。
- 救急外来でICが行われることが多いため、ICに同席ができていないことも多かったが、同席できない場合でもIC後には患者・家族の思いや要望を聞き記録に残すことで適切なチーム医療を行うことができた。
- ラダーIの看護師の育成のため、透析看護や救急外来看護、DSA室やカテ室への看護を行えるようにOJTを計画し、全員が透析・救急外来・DSA・カテ室看護を行えるようになった。
- 準夜勤務導入評価表を作成し、新人看護師が準夜勤務を開始する際に客観的に導入開始の判断できるようになり、新人看護師にとっても目標を明確にすることができた。

●学会・研究発表

心電図電極による皮膚トラブルを減少させるために一2種類の保湿剤を使用し-	河野眞子	第18回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	9月
--------------------------------------	------	------------------------------	----

●はじめに

循環器内科・心臓血管外科の混合病棟であり、心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈・弁膜症・胸腹部大動脈瘤などの疾患を対象に急性期から回復期までの患者が入院している。循環器疾患は生活習慣との関わりが深いため、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、MSW でチームカンファレンスを行いながら退院に向けて指導を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシングシステム)
- ・勤務体制：2 交替制(4 人夜勤)
- ・有資格者：院内認定 なし

●部署運営状況

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
90.7%	14.6 日	40.3 人	31.8%

- ・その他、各部署の特徴的なデータ

手術：244 件、心臓カテーテル検査：154 件、PCI：71 件、ペースメーカー植込み：71 件

●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 夜間の緊急心臓カテーテル治療の介助を担っており、カテーテル検査治療介助看護師を新たに 6 名育成した。
2. 急変のリスクを抱える患者が多いため、急変対応の実践能力の向上を目的に、新人看護師 5 名、2 年目・3 年目・7 年目・10 年目看護師各 1 名に対し BLS、挿管介助などのシミュレーションを行った。
3. 心不全患者 158 名に対し多職種が参加する心不全カンファレンスを 357 件実施した。カンファレンス後に看護計画の修正率は 100%であり、個別性のある看護計画の立案を行った。また、退院時パンフレットの活用件数は 123 件（前年度より 58 件減）で指導後の反応の記録は 65%であった。病棟と外来の継続看護のための退院時連絡票は 98 名（対象患者の 80%）に使用した。
4. IC への同席は業務調整を行い同席率は 75%、IC 後の反応の記録率は 100%だった。
5. 医療安全環境ラウンドの結果をもとに、病室内の環境チェックを年 6 回実施し、患者の療養環境改善に取り組んだ。転倒転落防止のため、必要な患者に L 字柵が設置できるようになった。
6. 認知症ケア加算の対象者のうち後期は 16 名（対象者の 40%）が抑制を使用し実施率が高い状況があった。抑制カンファレンスを毎日実施し医師と協働して抑制の解除に向けた取り組みができた。
7. 夜間看護補助者導入に伴い、業務の整理をしたことで看護師の超過勤務時間は月平均 1 人あたり 9:44 時間となり前年度 11:09 時間と比較して 1:25 時間の減少した。

●2022 年度 学会・研究発表

ブラッドアクセスカテーテルの固定方法の検討—ドレッシング材の剥がれた部位、不快感に着目して—	間 萌絵	第 18 回中国四国地区 国立病院機構国立療養所 看護研究学会	9 月 10 日
--	------	---------------------------------------	----------

●はじめに

産婦人科 14 床・小児科 17 床、NICU6 床を有する混合病棟である。24 時間体制で機能する地域周産期母子医療センターとしての役割を担っており、他施設からのハイリスク妊産婦の受け入れも行っている。NICU では、在胎 32 週以降の早産児や近隣の開業医からの新生児搬送にも対応している。また、小児科は、15 歳未満のあらゆる診療科の患者を受け入れており、感染症他急性疾患だけでなく、慢性疾患を持ち、長期入院している患者と母親にやさしい看護が提供できるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：3 交替制(6 西 4 人夜勤 NICU 2 人夜勤)
- ・有資格者 アドバンス助産師 3 名・NCPR インストラクター 2 名・NCPR 22 名
【院内認定】がん化学療法 10 名 消化器内視鏡 1 名

●部署運営状況 (2022 年度)

部署	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療、看護必要度
6 西	66.7%	7.2	18.1	40.1%
NICU	63.7%	10.5	3.5	

- ・その他、各部署の特徴的なデータ

手術件数 307 件 分娩件数 289 件 (うち帝王切開 61 件)

1 日平均新生児数 3.1 名 2500g 以下の出生児 43 名 新生児搬送受け入れ件数 13 件

●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 新型コロナウイルス感染症罹患妊産婦に対して、助産師が感染症患者受け入れ病棟と連携し、安心して分娩できるように母体管理を行なうとともに、産後は児との母子分離を最小限に留めるための母乳育児支援やリモート面会を行う等、隔離に伴う母親の不安な気持ちに寄り添う看護を行った。さらに、院内 ICT と協働しながら新型コロナウイルス感染症罹患妊産婦の受け入れマニュアルを整備し、当病棟においても安全に感染症罹患妊産婦の経膈分娩の対応ができるよう整備した。
2. 婦人科は、院内認定がん化学療法看護師育成研修を 3 名が受講し合格した。研修受講者が中心となり、勉強会を行い、スタッフ間で知識の共有ができ入院対応も可能となった。
3. 新人助産師は「新人助産師育成研修」に参加し、知識・技術を習得するとともに、OJT ではクリニカルコーチやフレッシュパートナー、アドバンス助産師の指導により妊産婦が安全で満足できるような看護を提供できるように取り組んだ。さらに、助産師だけでなく、看護師も妊産婦の入院時の対応が出来るように、看護研究を通して「産科緊急入院の対応が可能」となるようシミュレーション学習を行った。NICU においては、母親が退院後に安心して育児がスタートできるよう「NICU での充実した退院指導パンフレットの改訂」について取り組んだ。

●2022 年度 学会・研究発表

超緊急帝王切開に対応するための学習方法の検討	澤原 茉由	院内看護研究発表会	2 月
混合病棟で働く看護師に対する産科緊急入院の対応—シミュレーション学習の効果—	三崎 夏江	第 18 回 中国四国地区国立病院機構 国立療養所看護研究学会	9 月
NICU での充実した退院指導パンフレットの改訂—退院後のアンケート調査を通して—	藤川 奈々子	第 31 回 日本新生児看護学会学術集会	11 月

●はじめに

当病棟の主な診療科は、消化器内科、肝臓内科である。消化器内科では、主に胃がん、大腸がん、膵臓がん、大腸憩室出血、総胆管結石、結石性胆管炎の患者が入院され、上下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、化学療法を行っている。肝臓内科では、肝臓がん、肝硬変、薬剤性肝障害の患者が入院され、肝動脈塞栓術、経皮的ラジオ波焼灼療法を行っている。検査・治療を終えられた患者が早期に退院できるよう多職種と連携をとりながら、思いやりの心を持った看護を提供できるよう努めている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2交替制（3人夜勤）
- ・有資格者：ICLS 2名

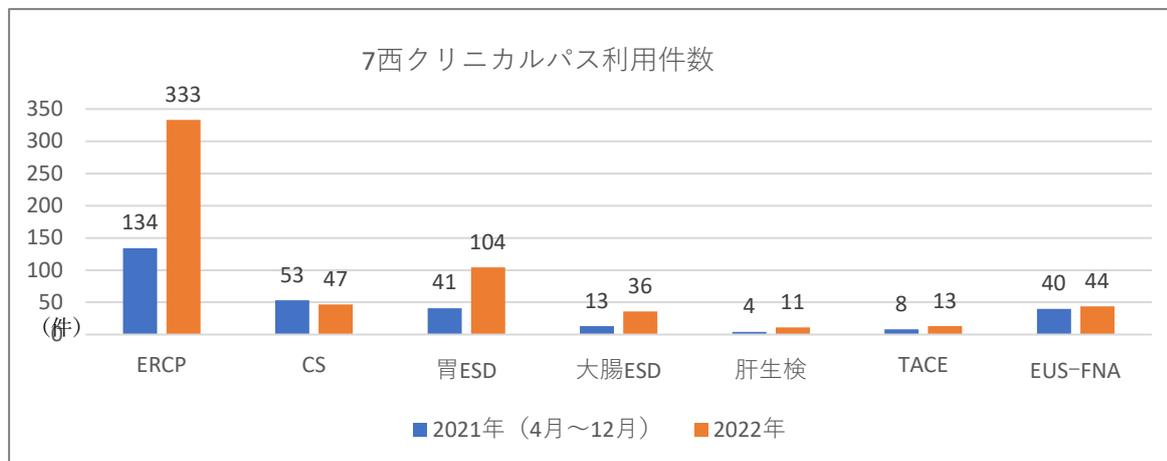
【院内認定】がん化学療法 12名、消化器内視鏡 3名、

●部署運営状況：病床数 46床

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2021年度	98.5%	15.2日	34.2人	28.5%
2022年度	90.8%	13.1日	38.4人	29.0%

（2022年1月半ば～3月は閉棟していたため2021年12月までで計算）

- ・その他 各部署の特徴的なデータ



●2022年度の活動、取り組み内容、成果

1. 新たに院内認定がん化学療法看護師に1名が合格した。今後も質の高い看護を提供できるように個々のスキルアップを支援していく。
2. 多職種カンファレンスを毎週開催し、患者情報、治療方針、退院支援に関する患者の情報を共有し早期退院を目指した。その結果、2022年度は平均在院日数 13.1日に短縮することができた。
3. 消化器内科、肝臓内科以外の外科、泌尿器科、呼吸器内科、循環器内科、整形外科など様々な科の患者の受け入れも積極的に行っている。引き続き患者数確保のため、他診療科の入院の受け入れを積極的に行い、多職種と連携し早期退院を目指した退院支援を行っていく。

●2022年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当病棟は、消化器外科・外科・泌尿器科の周手術期、化学療法、放射線療法を行う患者が主に入院している。特に高齢患者は、入院して治療を受けることで生活スタイルの変化を余儀なくされることがある。これらの変化を最小限にできるように、入院時からリハビリスタッフや認知症看護認定看護師等と連携し、看護を行っている。また、ストーマ管理や尿道カテーテルの管理等の医療処置が必要となる患者が、安心して退院後の生活に戻ることができるように、入院時より医師やリハビリスタッフ、栄養士、MSWや皮膚排泄ケア認定看護師等とカンファレンスを行い、早期に問題解決ができるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（4 人夜勤）
- ・有資格者：摂食嚥下障害看護認定看護師 1 名
中国ストーマリハビリテーション講習会終了者 2 名
【院内認定】がん化学療法 13 名 消化器内視鏡 18 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
2021 年度	96.10%	11.1 日	40.4 人	42.70%
2022 年度	95.20%	10.4 日	39.8 人	41.50%

・その他、各部署の特徴的なデータ

手術件数

	外科・消化器外科	泌尿器科
2021 年度	553 件	439 件
2022 年度	614 件	531 件

●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 新たにロボット支援下仙骨膣固定術（RASC）の医療者用クリニカルパスと患者用クリニカルパスを作成した。クリニカルパスを使用する上で記入漏れがあったため、看護師に入力方法を記載したパンフレットを配布し指導を行った結果、クリニカルパスの記入漏れを 0 件にすることができた。
2. 2021 年度、手指消毒剤の使用量が目標値（20 g / 日 / 人）を達成しなかったため、適切な場面で使用できているかチェックを行い、使用場面について再指導を行った。さらに、使用量の少ない看護師には、勤務中にペアの看護師にチェックを行ってもらい、勤務終了時に振り返りを行った。取り組みの結果、前年度院内発生の MRSA が 17 件発生したが、2022 年度は 9 件に減少した。しかし、手指消毒剤の使用量は、目標値に達しない月もあるため、今後も適切な場面での手指消毒剤の使用を促していく。
3. 入院時の退院困難要因の入力率を上げるため、入力できていない患者を把握し、入力できていない看護師に個別指導を行った。その結果、全員が漏れなく入力できるようになった。
4. 退院指導の充実を図るため、退院パンフレット使用の必要性と活用方法について指導を行った。その結果、毎月約 10～20 件程度であったパンフレット使用件数が、30～40 件へと増加した。今後も、パンフレット内容の見直しを適宜行い、退院指導の充実を図っていく。

●2022 年度 学会・研究発表

ロボット支援下前立腺全摘除術後の排便時の姿勢の工夫—足台を用いた前屈姿勢の効果について—	瀧野 祐一	院内看護研究発表会	2 月
--	-------	-----------	-----

●はじめに

8階西病棟は、脳血管障害、頭部外傷、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患などの治療を行う脳神経外科病棟であり、脳血管内カテーテル治療・クリッピング手術等の外科的治療を行っている。入院時から早期の社会復帰と退院後の生活を見据えて、コメディカル・地域医療連携室と共に、週3回定期カンファレンスを行い、患者・家族に安心安全な看護の提供に努めている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2交替制（4人夜勤）
- ・有資格者：【院内認定】がん化学療法9名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2021年度	92.6%	24.4日	43.9人	30.2%
2022年度	92.7%	24.9日	44.1人	23.1%

・その他、各部署の特徴的なデータ

OP件数 373件（血管内手術 101件含む） 脳血管造影検査 110件

●2022年度の活動、取り組み内容、成果

- 1.身体抑制について、抑制件数及び抑制時間短縮への取り組みを行った。主治医を交えた多職種でのカンファレンスを実施し、身体抑制が必要か検討し、解除に向けた方策を個別的に考え実施した。早期の抑制解除を目指し、車椅子移乗等による日中の離床時間の延長を図った。また、栄養チューブの自己抜去防止のために抑制していた症例では、医師の協力により注入時以外での栄養チューブの留置を中止し抑制時間の短縮や解除をすることができた。2022年度の栄養チューブ抜去のインシデント発生率は21.3%で前年度比で約3%減少した。
- 2.病棟の特殊性と看護の専門性から、夜間休日を含む時間外に実施されるDSA(緊急脳血管造影や血管内カテーテル治療)の介助を行っている。緊急度の高い検査と治療であり、対応できるスタッフの増員が必要であるため、外来部門とも連携して見学等のオリエンテーションを行い、新たに3名のスタッフをDSAの介助ができるように育成した。今後、検査・治療の内容によっては、まだ支援が必要となる場面もあるため、引き続き指導や勉強会を継続していく。
- 3.退院後の生活環境を踏まえた介入を行うために、看護師がICに同席することに取り組み、ほぼ100%ICに同席することができた。これにより、本人や家族の退院後の意向が把握でき、地域医療連携室を含む多職種による早期退院支援が実践できた。また、後期は脳卒中相談窓口が開設され、入院の初期段階より患者や家族にパンフレット及び動画を用いた情報提供と指導を行うことができた。

●2022年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

循環器・脳卒中センターとして、循環器系疾患・脳血管疾患を主に、消化器疾患等の患者の受け入れも行っている。主な疾患は、脳梗塞・心不全・心筋梗塞・狭心症・閉塞性動脈硬化症・電解質異常などである。疾患の特性からADLに支障がある患者や入退院を繰り返す患者が多い。高齢者や認知機能が低下した患者の割合も増加しており、転院や施設への入所を希望するケースが多く、他職種との連携を図り退院後の生活を見据えた支援を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2交替制（3人夜勤）
- ・有資格者：認知症看護認定看護師1名 【院内認定】がん化学療法 4名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2021年度	94.2%	13.8日	39.8人	35.3%
2022年度	95.4%	13.1日	40.2人	26.4%

・その他、各部署の特徴的なデータ

心臓カテーテル検査	: 176件	経皮的冠動脈形成術	: 42件
カテーテル心筋焼灼術	: 106件	ペースメーカー植え込み術	: 31件
経皮的末梢血管形成術	: 89件	上部内視鏡	: 122件
下部内視鏡	: 63件	内視鏡的膵胆管造影	: 57件

●2022年度の活動、取り組み内容、成果

1. 心電図・心不全の病態や脳梗塞看護について勉強会を開催した。また、クリティカルケア認定看護師による急変時のシミュレーションの勉強会を開催し知識が向上したことで、1、2年目看護師が急変時に自分の役割を考えて行動できるようになってきた。
2. 受け持ち看護師の役割について再周知した。その結果、患者の入院前の生活や現在のADL、退院後の希望等を情報収集し、退院支援カンファレンスで情報提供ができるようになった。また、退院指導の充実につながり、退院指導パンフレットの作成件数が月15件から30件と増加した。
3. 日々のPNS体制を強化した。ペア間での情報共有を密に行うようになり、患者の個別性に合わせた清潔ケアについて考えるようになり、看護ケアの充実につながった。
4. ナースコール、離床センサーに早期に対応ができるようにカンファレンスを実施した。ナースコールの対応は20秒以内に対応できるようになったが、対応できないことが時にあるため、継続して声掛けをおこなっていく。

●2022年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当病棟は整形外科・形成外科・皮膚科の混合病棟である。主に手術前後の看護を行っており、周手術期には異常の早期発見と苦痛の緩和に努めている。特に整形外科では、高齢患者が多く、リハビリスタッフと情報交換しながら早期離床を目指している。リハビリのため転院する患者も多く、大腿骨頸部・転子部骨折の患者は「大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」を使用し、継続したケアが提供できるよう地域の回復期病院と連携している。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(3人夜勤)
- ・有資格者 【院内認定】がん化学療法 2名 消化器内視鏡 2名

●部署運営状況

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
96.9%	23.6日	44.6人	34.8%

手術件数(2022年度)

整形外科	788件
形成外科	63件
皮膚科	15件
合計	866件

大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス (オレンジパス) 適応件数 85件
--

●2022年度の活動、取り組み内容、成果

1. PNSの強化に取り組み、リーダーの役割とは何かを副師長と日々リーダーを担うスタッフとで話し合い、リーダー表の見直しを行った。リシャッフルを毎日実施し業務調整を行うことやリーダーへの午前・午後の報告を行うことが定着した。リーダーがPNSペアそれぞれの動きをより把握することができ、業務調整がスムーズに行えた。超過勤務は2021年度の1人あたり19.5時間/月から2022年度は18.4時間/月に減少した。また、看護師長とリーダーでの患者ラウンドを開始した。患者の状態や療養環境などで気になったことは日々の受け持ち看護師に伝え、一緒に考えることで看護の質の向上につながった。
2. 2022年度は新人看護師が7名配属になり、新人看護師指導の充実を目指した。クリニカルコーチを中心に4・5月は日案・週案を作成した。また、フレッシュパートナーが事前に導入を行ってから夜勤に入り、受け持ち患者を初めて受け持つ際は、導入を行った後、PNS年間ペアの先輩と一緒に受け持つようにするなど計画的に行った。新人看護師の精神面に不調を来した時や新人看護師への指導に関して問題が発生した際は情報を共有し話し合い、病棟全体で新人看護師に関わる事ができた。2022年度の新人看護師の離職はなく看護師2年目を迎えている。

●2022年度 学会・研究発表

なし

●はじめに

主に耳鼻咽喉科・眼科・婦人科・呼吸器内科の患者を受け入れており、手術療法・化学療法・放射線療法についての看護を実践している。

- 耳鼻咽喉科：頭頸部がん・下咽頭がん・舌がん・耳下腺がん・甲状腺腫瘍・顔面神経麻痺・中耳炎・慢性副鼻腔炎・扁桃周囲膿瘍・扁桃腺炎・声帯ポリープ・突発性難聴など
- 呼吸器内科：肺がん・細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など
- 婦人科：子宮・卵巣悪性腫瘍・子宮脱・子宮筋腫・卵巣嚢腫など
- 眼科：白内障手術 2泊3日パス入院

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(3人夜勤)
- ・有資格者：【院内認定】 がん化学療法 14名

●2022年度 部署運営状況

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療看護必要度
90.9%	14.1日	42.0名	25.5%

●2022年度 手術件数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
耳鼻科	22	24	25	17	27	25	17	24	20	24	15	25	265
眼科	6	11	15	13	13	9	11	10	11	11	13	21	144
婦人科	6	5	5	8	8	2	1	3	3	3	2	8	54
合計	34	40	45	38	48	36	29	37	34	38	30	54	463

●2022年度の活動、取り組み内容、成果

1. 2022年度からは、退院支援についての多職種カンファレンスの際、MSWから情報提供された内容を検討していたが、受け持ち看護師が主体的に患者情報を提供し、検討を行うようにした。退院後に予想される医療管理や生活・介護上の支援について検討することができ、患者と家族の意向に沿った関わりをすることができた。また、カンファレンスの記録漏れをなくすためにリーダーが最終確認をするように取り組み、修正がある場合は個人指導を行った結果、記録の漏れを防ぐことができた。
2. 夜勤リーダーからの患者に関する必要な情報提供は、看護師長と日勤リーダーへ申し送りをを行い、日勤リーダーから担当看護師へ伝えるようにした。また、スタッフへ伝達したいことやインシデント等の共有は、午後のリシャッフルの時間に行った。その結果、日勤者は業務開始時間を守ることができるようになり、時間外勤務は看護師1人平均20分減少した。
3. 新人教育について、フレッシュパートナー、クリニカルコーチ、副看護師長と話し合いの場を作り、新人の指導方法について検討した。新人の性格や精神的側面や技術的側面を把握しながら個別性に合わせた指導内容を整えると共に、新人育成教育体制と病棟教育プログラムに沿って支援を行うことができた。

●2022年度 学会・研究発表 なし

●はじめに

10 階東病棟は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 3 年 4 月 26 日より緩和ケア病棟を閉棟し COVID - 19 対応病棟として運用（7 床～15 床）を開始した。変異株に伴い患者の動向も変化し、基礎疾患を有する患者や妊婦の割合が増加した。死亡患者も前年度より増えたため、多職種と協働し終末期患者や家族の思いや希望に添えるよう取り組んだ。

●看護体制

・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）

・勤務体制：3 交替制

7 床運用時：準夜・深夜 2 人夜勤

15 床運用時：準夜 3 人、深夜 2 人夜勤

・有資格者：ICLS 研修受講者 15 名

【院内認定】がん化学療法 11 名 消化器内視鏡 1 名

●部署運営状況

	入院患者数	重症度別患者数		妊婦入院数	死亡退院患者数
		中等症 I	中等症 II		
令和 3 年度	160 名	51 名	57 名	8 名	3 名
令和 4 年度	367 名	63 名	122 名	51 名	10 名

●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. PPE 着脱・手洗い・N95 マスクのフィットテストを定期的におこない感染予防に努めた。擦式アルコール製剤使用量は、12 月が 17.7g であったが、その他の月は 20.4g～78.7g と個人目標量の 20g / 日が達成できた。
2. 入院時早期から医師、リハビリ、栄養士と患者の情報共有をおこない、食欲不振や栄養状態の低下、隔離環境による筋力や認知機能の低下など高齢者の特徴を踏まえて、患者個々に合わせたケア介入をおこなった。
3. 妊婦の受け入れが昨年度より増加したため、緊急帝王切開術前後の看護について病棟内で学習会を実施した。また、産科病棟看護師と協働して手順の作成をし、6 件の帝王切開患者の対応をおこなった。
4. 2021 年度より、死亡患者の割合も多く看取り時の面会について、終末期家族の思いや希望に添えるように病棟の感染マニュアルの変更や手順の作成を行い、病棟一団となって取り組んだ。

●2022 年度学会、研究発表

研究発表なし

部署名 ICU

看護師長名 並 杏子

●はじめに

ICU は、救急搬送された重症患者（多発外傷、脳血管障害、急性心筋梗塞、心不全、急性大動脈解離など）、心臓血管外科、胸部外科、脳神経外科、耳鼻科、外科などの手術患者のほか、COVID-19 患者を受け入れ、集中治療・看護をおこなっている。幅広い分野での知識・技術が必要となる部署で、クリティカルケア認定看護師、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師と共に、患者の状態変化の早期対応や患者・家族の精神的サポートに努めている。また、多職種と連携を図り、質の高い看護提供で早期回復を目指した看護を提供することを心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップナーシングシステム)
- ・勤務体制：3 交替制(5 人夜勤)
- ・有資格者：クリティカルケア認定看護師 2 名 救急看護認定看護師 1 名 呼吸療法認定士 5 名
【院内認定】 がん化学療法 4 名 消化器内視鏡 2 名

●部署運営状況

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	ICU 入室患者数	リハビリ患者数
72.8%	11.5 日	7.2 名	2613 名	405 名

●2022 度の活動、取り組み内容、成果

1. 高い専門性を背景に生活の視点を重視し安全・安心な看護を提供する。

病棟で実施されているケアに関して根拠を考えられるようにディスカッションの場を設けるようにした。また、COVID-19 患者の入室時の取り決め事項を周知し防護具の着脱方法の指導を行い、2 年目以上のスタッフが全員 COVID-19 対応が可能となり、アウトブレイクなく看護を行った。

2. 個人のキャリアビジョンに沿って能力の向上を図る。

院内研修（救急看護スキルアップ研修：ファーストレベル）を 4 名が受講した。学会での看護研究の発表を行った。集中ケア認定看護師 1 名が特定行為研修を受講した。

3. 看護について語り合うことで看護観を深める事ができる

カンファレンスでそれぞれが考えている看護について意見交換を行った。意見をいうスタッフは限られているため、ファシリテーターを設置し、参加したスタッフが意見を出しあった。

●2022 年度 学会・研究発表

発表演題	発表者	学会名	開催地・月日
環境音と光の削減による ICU 患者の睡眠改善－耳栓とアイマスクの使用がもたらす効果－	中村 夕姫乃	第 18 回 中国四国地区国立病院・国立療養所看護研究学会	山口県 9 月 10 日

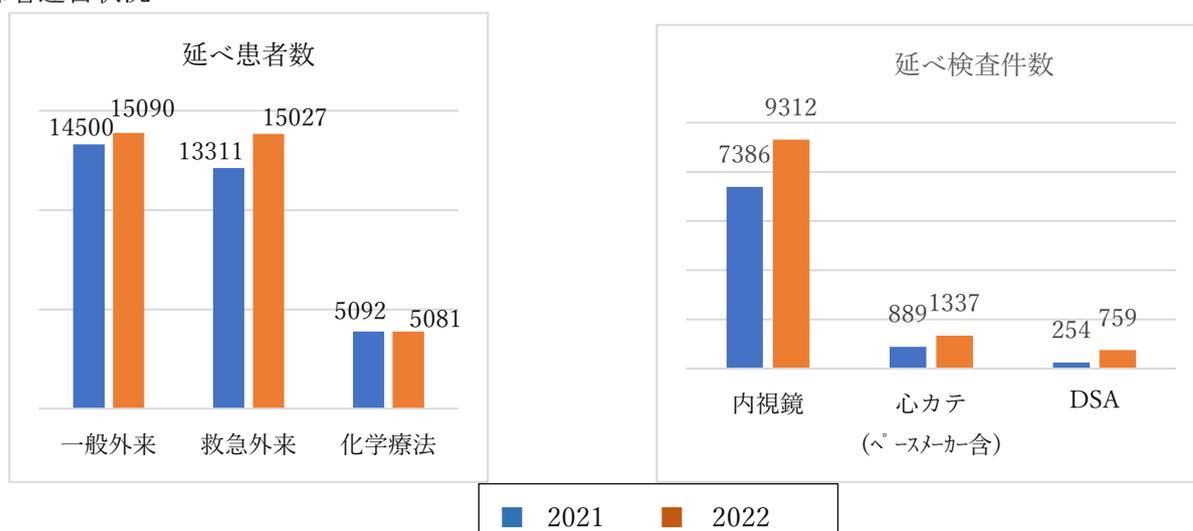
●はじめに

当院の外来は 32 診療科があり、外来化学療法、入院及び外来患者の血管撮影・血管内治療、内視鏡検査・治療を担当している。一日平均 533.3 名の患者が受診しており、中央処置室では一日約 150～250 名の患者の採血、注射、点滴、輸血、検査を実施している。また、当院は高度急性期医療、救急医療を担う役割があり、救急外来では 1 次～3 次の救急患者を 24 時間受け入れている。一般外来、救急外来ともに受診時の短時間での患者・家族との関わりではあるが、倫理的配慮と信頼関係を大切にして、より安全で安心できる看護を心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
 - ・勤務体制：3 交替制（救急外来）
 - ・有資格者：クリティカルケア認定看護師 1 名 がん化学療法看護認定看護師 1 名
- 【院内認定】
- PET-CT 看護 24 名 がん化学療法 18 名 内視鏡看護 19 名

●部署運営状況



●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 診療科間での補完業務をスムーズに行うため新たな診療科の業務習得を計画的に実施した。
2. 救急外来ではクリティカルケア認定看護師を中心に育児休業から復職した看護師への指導を行い、3 名が救急外来での業務が行えるようになった。
3. 新卒者(非常勤)1 名が外来配置となり、処置室での看護技術習得や各科外来をローテーションしながら救急外来での看護業務の実践を目標に計画的に指導し、育成することができた。
4. 化学療法室では 9 時から 9 時 30 分までの予約枠を 5 床増床し多くの患者の受け入れと以前より終了時間を早くするための体制を整えた。また、薬剤や患者指導についての勉強会を定期的に開催して知識向上に努め、新たに院内認定がん化学療法看護師に 1 名が合格した。
5. 令和 4 年 1 月から予定の入院患者に対し、入院前コロナ検査を実施することを開始した。他部門と連携しながらスタッフ全員で感染予防対策を継続した。

●2022 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

手術室は、外科、心臓血管外科、脳神経外科、胸部外科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科、小児外科、形成外科、眼科、皮膚科の手術を年間約 3800 件行い、ハイブリット手術室を使用した手術や、手術支援ロボットを使用した最先端の手術を行っている。岩国医療圏唯一の 3 次救急医療機関として 24 時間緊急手術に対応できる体制をとっている。また、新型コロナウイルス陽性患者の緊急手術にも対応している。患者が安心して安全な手術を受けることができるように日々の手術看護を行っている。

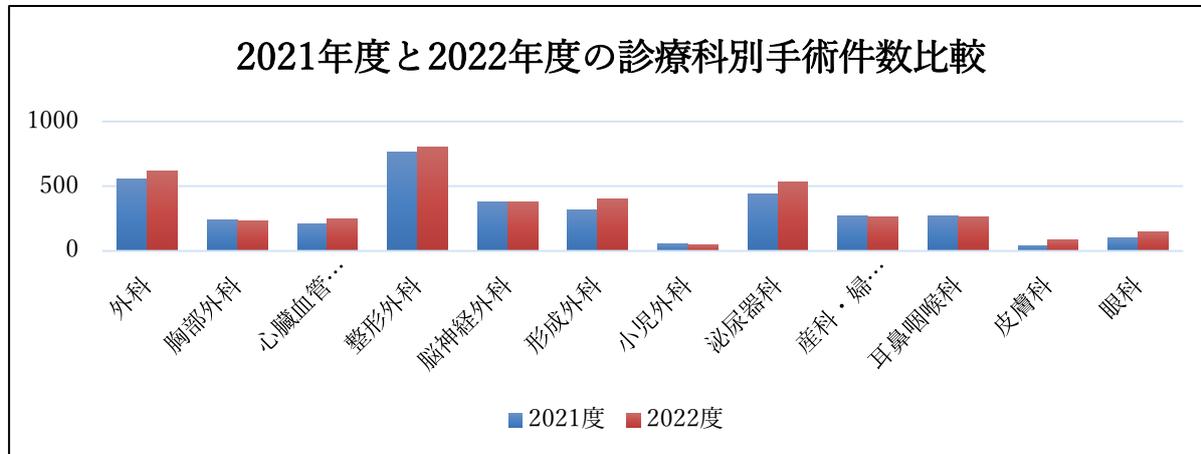
●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・待機体制：平日 22 時～8 時 30 分 待機当番看護師 2 名
 土日祝日 8 時 30 分～20 時 30 分、20 時 30 分～8 時 30 分 待機当番看護師 2 名
- ・有資格者：集中ケア認定看護師 1 名、呼吸療法認定士 1 名、NST 専門療法士 1 名
 【院内認定】がん化学療法 2 名 消化器内視鏡 1 名

●部署運営状況

年間手術件数

	手術件数	予定手術件数	緊急手術件数	全身麻酔件数
2021 年度	3644	2072	1572	2474
2022 年度	4000	2276	1724	2719



●2022 年度の活動、取り組み内容、成果

1. コロナ禍前は年間約 3800 件の手術を行っていたが、コロナ禍で 2021 年度は年間約 3600 件まで手術件数が減少した。2022 年度は年間 4000 件の手術が行え、コロナ禍前より約 200 件手術件数が増加した。新型コロナウイルス陽性患者の緊急手術に対応しながら多くの手術を行えた。
2. 2021 年度の術前訪問は 4 %の実施率であったが、2022 年度は特殊体位の手術患者を中心に術前訪問をおこない 27%の実施率となった。特殊体位に限ると 43%実施できた。
3. 5 年ぶりに新人看護師が 3 名入職し、クリニカルコーチを中心に育成計画を作成した。振り返りシートを活用した教育を行い、離職者を出さず 2 年目を迎えることができた。

●2022 年度 学会・研究発表

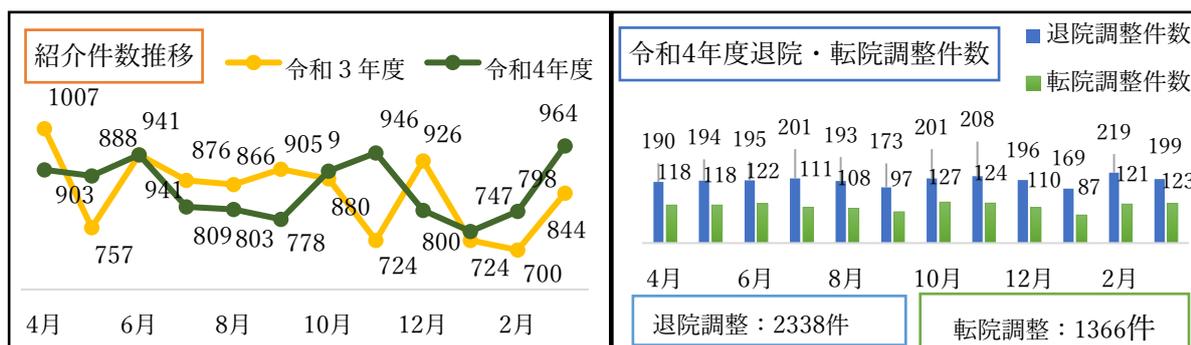
手術室で生じる患者の不利益と要因調査—手術室看護師と病棟看護師に係る場面より—	田村 愛実	院内看護研究 発表会	2 月
---	-------	---------------	-----

●はじめに

地域医療連携室は、地域医療の中核を担う医療機関の連携窓口として、①地域の診療所・病院との医療連携業務、②患者や家族、関係機関からの相談支援業務をおこなっている。医療連携業務は、当院への受診や入院する際の予約や受け入れの調整、他機関との紹介に関する連携調整などをおこなっている。相談支援業務は、当院で治療を受けた患者が社会復帰していく中でおこる様々な生活の課題に対して、医療社会事業専門員、退院調整看護師が、医療機関やケアマネージャー等の社会福祉機関、行政機関等と情報共有し、患者が退院後の生活に困らないよう退院や転院調整をおこなっている。

●部署運営状況

- ・職員配置：看護師 10 名 医療社会事業専門員 6 名 事務員 5 名
- ・有資格者：がん看護専門看護師 1 名
 医療メディエーター研修修了者 1 名
 小児在宅移行支援指導者養成研修修了者 1 名
 脳卒中療養相談士研修修了者 6 名
 がん相談支援センター相談員基礎研修修了者 2 名
 入退院支援に関する実践力向上研修修了者 4 名



●2022年度の活動、取り組み内容、成果

1. 2021年度の退院支援計画書着手件数は月に約120件で算定率は60%と低かった。そのため、地域医療連携室スタッフだけではなく病棟看護師も関わってもらうため、病棟看護師対象に入退院支援加算取得についての勉強会を数回実施した。その結果、入院7日以内に多職種カンファレンスを実施し、退院困難要因があり支援が必要な患者に退院支援計画書を作成・交付することができ、2022年度は算定率が95.9%に上昇した。
2. 入院早期よりケアマネージャーと情報共有しサービス調整をおこない、退院前カンファレンスを実施することで、介護支援等連携指導料取得件数が前年度より5件増え70件となった。
3. 2022年5月より、重症患者初期支援対応として医療メディエーターの介入を開始した。危機的状況にある患者・家族の意思決定支援に110件介入し、重症患者初期支援充実加算取得に繋がった。
4. 2023年1月に脳卒中相談窓口が地域医療連携室に開設となった。脳卒中療養相談士6名が中心となり脳卒中の患者・家族が安心して生活ができるように介入し、月平均約60件の脳卒中相談をおこなった。

●2022年度 学会・研究発表

研究発表なし

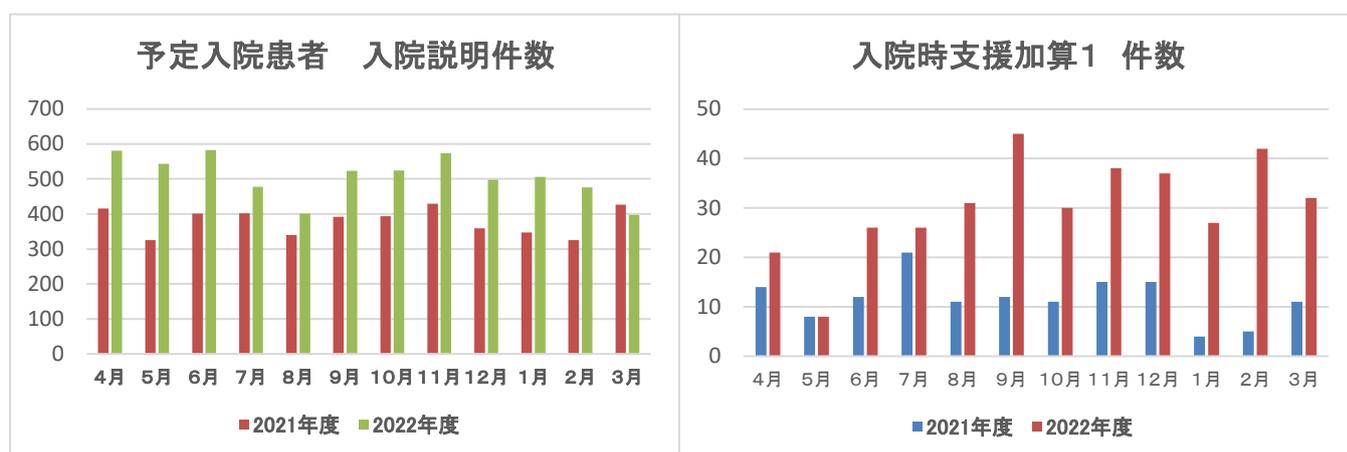
●はじめに

入院が決まった患者や家族に対して、患者や家族が入院生活や治療計画についてイメージすることができ、安心して入院生活を送ることができるように入院説明を行う。面談を通して病歴やアレルギーの有無、入院及び退院に関わる問題について情報収集を行っている。面談で患者や家族から得た情報は、担当医師や病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW などに入院前カンファレンスで情報提供を行い病棟の看護計画の立案や退院支援に繋げている。

●看護体制

- ・勤務体制 日勤勤務
- ・有資格者 【院内認定】 がん化学療法 3 名 消化器内視鏡 2 名

●部署運営状況



●2022 年度活動、取り組み内容、成果

1. 入院説明が 17 時以降となる患者の入院説明や、17 時以降に依頼があった患者で後日日程調整できる患者の入院説明も開始した。そのため入院説明件数は 2021 年度 4557 件から 2022 年度 6083 件と 1526 件増加した。
2. 病棟との入院前カンファレンスでは、介護認定など社会面についての情報提供が主となっていたが、自部署内で患者の退院困難要因の認識を見直し、化学療法導入時やストーマケアなどの退院指導が必要となる患者に対しても、退院支援が必要な患者としてカンファレンスで情報提供を行うようにした。また、カルテに入院時支援加算の対象者がわかるように明示した。入院時支援加算件数は、2021 年度 139 件から 2022 年度 363 件と 224 件増加した。
3. 現状の入院説明の改善点について検討した。入院当日のスケジュールを記入した入院予約表や手術準備物品について、現状に合わせた内容に改善した。

●2022 年度 学会・研究発表

なし

【 研 究 活 動 業 績 】

1. 英文論文 (2022年4月～2023年3月)

【著者・タイトル・雑誌名・発行年月・巻・号・ページ・Epub Date】

※ 太字…当院職員

消化器内科

1	Masaya Iwamura, Chiaki Kusumoto, Masahiro Nakagawa, Kazuhiro Matsueda, Sayo Kobayashi, Masao Yoshioka, Tomoki Inaba, Tatsuya Toyokawa, Chihiro Sakaguchi, Shouichi Tanaka , Takehiro Tanaka and Hiroyuki Okada; Endoscopic features of oxyntic gland adenoma and gastric adenocarcinoma of the fundic gland type differ between patients with and without Helicobacter pylori infection: a retrospective observational study BMC Gastroenterology. 2022 Jun 12;22(1):294-304
2	Junki Toyosawa, Yasushi Yamasaki, Tsuyoshi Fujimoto, Shouichi Tanaka , Takehiro Tanaka, Toshiharu Mitsuhashi, Hiroyuki Okada; Resection depth for small colorectal polyps comparing cold snare polypectomy, hot snare polypectomy and underwater endoscopic mucosal resection Endoscopy International Open. 2022 May 13;10(5):E602-E608. eCollection 2022 May.
3	Daisuke Kametaka , Masaya Iwamura, Takahide Takahashi, Araki Hirabata, Kenta Hamada, Yoshiyasu Kono, Hiromitsu Kanzaki, Seiji Kawano, Takehiro Tanaka, Fumio Otsuka, Yoshiro Kawahara, Hiroyuki Okada; Characterization of Gastric Tissue-Resident T Cells in Autoimmune and Helicobacter pylori-Associated Gastritis Current Issues in Molecular Biology. 2022 May 25;44(6):2443-2452.

呼吸器内科

1	Yutaro Tamiya, Shingo Matsumoto, Yoshitaka Zenke, Kiyotaka Yoh, Takaya Ikeda, Yuji Shibata, Terufumi Kato, Kazumi Nishino, Atsushi Nakamura, Naoki Furuya, Shingo Miyamoto, Shoichi Kuyama , Shogo Nomura, Takashi Ikeno, Hibiki Udagawa, Eri Sugiyama, Kaname Nosaki, Hiroki Izumi, Tetsuya Sakai, Naozumi Hashimoto, Koichi Goto; Large-scale clinico-genomic profile of non-small cell lung cancer with KRAS G12C: Results from LC-SCRUM-Asia study Lung Cancer. 2023 Feb;176:103-111. Epub 2022 Dec 31.
2	Daijiro Harada, Tomoki Tamura, Kiichiro Ninomiya, Toshio Kubo, Shoichi Kuyama , Sayaka Tachibana, Koji Inoue, Kenichi Chikamori, Kenichiro Kudo, Nobuaki Ochi, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Kiura; Safety of anti-SARS-CoV-2 messenger RNA vaccine in lung cancer patients undergoing anticancer chemotherapy: A multicenter, prospective, observational, patient-reported outcome study Thoracic Cancer. 2023 Jan;14(3):231-236. Epub 2022 Nov 20.
3	Yukari Tsubata, Keita Kawakado, Kosuke Hamai, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Ryota Saito, Atsushi Nakamura, Takeshi Masuda, Megumi Hamaguchi, Shoichi Kuyama , Ryoichi Honda, Tadashi Senoo, Masamoto Nakanishi, Takamasa Hotta, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Kunihiro Kobayashi, Takeshi Isobe; Identification of risk factors for venous thromboembolism and validation of the Khorana score in patients with advanced lung cancer: based on the multicenter, prospective Rising-VTE/NEJ037 study data International Journal of Clinical Oncology. 2023 Jan;28(1):69-78. Epub 2022 Nov 10.
4	Hisashi Tanaka, Shigeru Tanzawa, Toshihiro Misumi, Tomonori Makiguchi, Megumi Inaba, Takeshi Honda, Junya Nakamura, Koji Inoue, Takayuki Kishikawa, Masanao Nakashima, Keiichi Fujiwara, Tadashi Kohyama, Hiroo Ishida, Shoichi Kuyama , Naoki Miyazawa, Tomomi Nakamura, Hiroshi Miyawaki, Naohiro Oda, Nobuhisa Ishikawa, Ryotaro Morinaga, Kei Kusaka, Nobukazu Fujimoto, Yasushi Fukuda, Masayuki Yasugi, Takeshi Tsuda, Sunao Ushijima, Kazuhiko Shibata, Takuo Shibayama, Akihiro Bessho, Kyoichi Kaira, Kenshiro Shiraishi, Noriyuki Matsutani, Nobuhiko Seki; A phase II study of S-1 and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy followed by durvalumab for unresectable, locally advanced non-small-cell lung cancer in Japan (SAMURAI study): primary analysis Therapeutic Advances in Medical Oncology. 2022 Dec 18;14:17588359221142786. eCollection 2022.
5	Shigeru Tanzawa, Tomonori Makiguchi, Sadatomo Tasaka, Megumi Inaba, Ryosuke Ochiai, Junya Nakamura, Koji Inoue, Takayuki Kishikawa, Masanao Nakashima, Keiichi Fujiwara, Tadashi Kohyama, Hiroo Ishida, Shoichi Kuyama , Naoki Miyazawa, Tomomi Nakamura, Hiroshi Miyawaki, Naohiro Oda, Nobuhisa Ishikawa, Ryotaro Morinaga, Kei Kusaka, Yosuke Miyamoto, Toshihide Yokoyama, Chiaki Matsumoto, Takeshi Tsuda, Sunao Ushijima, Kazuhiko Shibata, Takuo Shibayama, Akihiro Bessho, Kyoichi Kaira, Toshihiro Misumi, Kenshiro Shiraishi, Noriyuki Matsutani, Nobuhiko Seki; Prospective analysis of factors precluding the initiation of durvalumab from an interim analysis of a phase II trial of S-1 and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy followed by durvalumab for unresectable, locally advanced non-small cell lung cancer in Japan (SAMURAI study) Therapeutic Advances in Medical Oncology. 2022 Jul 29;14:1758835922116603. eCollection 2022.
6	Yukari Tsubata, Takamasa Hotta, Kosuke Hamai, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Ryota Saito, Atsushi Nakamura, Takeshi Masuda, Megumi Hamaguchi, Shoichi Kuyama , Ryoichi Honda, Tadashi Senoo, Masamoto Nakanishi, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Hiroshi Ohtsu, Kunihiro Kobayashi, Takeshi Isobe; Incidence of venous thromboembolism in advanced lung cancer and efficacy and safety of direct oral anticoagulants: a multicenter, prospective, observational study (Rising-VTE/NEJ037 study) Therapeutic Advances in Medical Oncology. 2022 Jul 21;14:17588359221110171. eCollection 2022.
7	Shinobu Hosokawa, Eiki Ichihara, Daijiro Harada, Shoichi Kuyama , Koji Inoue, Kenichi Gemba, Hirohisa Ichikawa, Yuka Kato, Naohiro Oda, Isao Oze, Tomoki Tamura , Toshiyuki Kozuki, Takahiro Umeno, Toshio Kubo, Katsuyuki Hotta, Akihiro Bessho, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Kiura; Pembrolizumab in advanced NSCLC patients with poor performance status and high PD-L1 expression: OLCSG 1801 International Journal of Clinical Oncology. 2022 Jul;27(7):1139-1144. Epub 2022 May 10.

8	Yukari Tsubata, Takamasu Hotta, Kosuke Hamai, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Ryota Saito, Atsushi Nakamura, Takeshi Masuda, Megumi Hamaguchi, Shoichi Kuyama , Ryoichi Honda, Tadashi Senoo, Masamoto Nakanishi, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Kunihiko Kobayashi, Takeshi Isobe; A new risk–assessment tool for venous thromboembolism in advanced lung cancer: a prospective, observational study Journal of Hematology & Oncology. 2022 Apr 4;15(1):40.
9	Kenichiro Kudo, Kazuya Nishii, Go Makimoto , Nobuhisa Ishikawa, Yukari Tsubata, Masahiro Kodani, Nobukazu Fujimoto, Masahiro Yamasaki, Tetsuya Kubota, Nagio Takigawa, Kazunori Fujitaka, Nobuhiro Kanaji, Takuo Shibayama, Junko Itano, Chihiro Ando, Katsuyuki Hotta, Katsuyuki Kiura; First and repeat rebiopsy for detecting EGFR T790M mutation in non–small–cell lung cancer: CS–Lung–003 prospective observational registry study Journal of Cancer Research and Clinical Oncology. 2022 Aug;148(8):1869–1877. Epub 2022 Apr 6.
10	Kengo Mori, Kazuya Nishii, Wataru Kitamura, Tomohiro Urata, Takahiro Baba, Hiroki Omori, Masamoto Nakanishi, Tomoki Tamura, Shoichi Kuyama ; Case report A case of Durvalumab induced aplastic anemia after chemoradiation therapy for NSCLC Current Problems in Cancer Case Reports. October 2022,8(1):100192
11	Tomoka Nishimura, Eiki Ichihara, Toshihide Yokoyama, Koji Inoue, Tomoki Tamura , Ken Sato, Naohiro Oda, Hirohisa Kano, Daizo Kishino, Haruyuki Kawai, Masaaki Inoue, Nobuaki Ochi, Nobukazu Fujimoto, Hirohisa Ichikawa, Chihiro Ando, Katsuyuki Hotta, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Kiura; The Effect of Pleural Effusion on Prognosis in Patients with Non–Small Cell Lung Cancer Undergoing Immunochemotherapy: A Retrospective Observational Study Cancers. 2022 Dec 14;14(24):6184.
12	Chihiro Ando, Eiki Ichihara, Toshihide Yokoyama, Koji Inoue, Tomoki Tamura , Keiichi Fujiwara, Naohiro Oda, Hirohisa Kano, Daizo Kishino, Kazuhiko Watanabe, Masaaki Inoue, Nobuaki Ochi, Fumie Onishi, Hirohisa Ichikawa, Hiroshi Kobe, Sayaka Tachibana, Katsuyuki Hotta, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Kiura; More than one–third of advanced non–small–cell lung cancer patients do not receive immunochemotherapy due to intolerance Journal of Cancer Research and Clinical Oncology. 2022 Oct 29.
13	Susumu Doita, Tomoki Tamura, Takahiro Baba, Hiroki Oomori, Kazuya Nishii, Masamoto Nakanishi, Shoichi Kuyama ; A case of immunoglobulin G4–Related disease with pleural effusion, requiring exclusion of tuberculous pleurisy Respiratory Medicine Case Reports. 2022 Apr 25;37:101654. eCollection 2022.

循環器内科

1	Yuji Koide , Toru Miyoshi, Takahiro Nishihara, Mitsutaka Nakashima, Keishi Ichikawa, Takashi Miki, Kazuhiro Osawa, Hiroshi Ito; The Association of Triglyceride to High–Density Lipoprotein Cholesterol Ratio with High–Risk Coronary Plaque Characteristics Determined by CT Angiography and Its Risk of Coronary Heart Disease Journal of Cardiovascular Development and Disease. 2022 Sep 28;9(10):329.
2	Tadashi Wada, Yusuke Katayama ; Identification of interatrial epicardial connections between the right–sided pulmonary veins and right atrium using coherent map Journal of Cardiology Cases. 2022 Oct 7;27(1):27–31. eCollection 2023 Jan.
3	Kentarō Ejiri, Toru Miyoshi, Hajime Kihara, Yoshiki Hata, Toshihiko Nagano, Atsushi Takaishi, Hironobu Toda, Seiji Namba, Yoichi Nakamura, Satoshi Akagi, Satoru Sakuragi , Taro Minagawa, Yusuke Kawai, Nobuhiro Nishii, Soichiro Fuke, Masaki Yoshikawa, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Ito, MUSCAT–HF Study Investigators; Effects of luseogliflozin and voglibose on high–risk lipid profiles and inflammatory markers in diabetes patients with heart failure Scientific Reports. 2022 Sep 14;12(1):15449.
4	Takanori Naito, Kazufumi Nakamura, Yukio Abe, Hiroyuki Watanabe, Satoru Sakuragi, Yusuke Katayama , Hajime Kihara, Atsutaka Okizaki, Yusuke Kawai, Masaki Yoshikawa, Atsushi Takaishi, Hideki Fujio, Hiroaki Otsuka, Soichiro Ogura, Hiroshi Ito, ATTR–HFpEF registry investigators; Prevalence of transthyretin amyloidosis among heart failure patients with preserved ejection fraction in Japan ESC Heart Failure. 2023 Mar 27.
5	Mitsutaka Nakashima, Machiko Tanakaya , Toru Miyoshi, Takaaki Saito, Yusuke Katayama, Satoru Sakuragi , Hiroshi Ito; The Fibrosis–4 Index Predicts Cardiovascular Prognosis in Patients With Severe Isolated Tricuspid Regurgitation Circulation Journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2022 Oct 25;86(11):1777–1784. Epub 2022 Aug 4.
6	Kohei Kawamura, Kentarō Ejiri, Hironobu Toda, Toshiaki Yamanaka, Masato Taniguchi, Kenji Kawamoto , Koji Tokioka, Yoichiro Naito, Ryo Yoshioka, Eiji Karashima, Hideki Fujio, Soichiro Fuke, Yasukazu Fujiwara, Atsushi Takaishi, Kosuke Seiyama, Toru Miyoshi, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Ito, ASHIMORI–IC Study; Association between home–based exercise using a pedometer and clinical prognosis after endovascular treatment in patients with peripheral artery disease Journal of Cardiology. 2023 Feb;81(2):222–228. Epub 2022 Sep 17.

血液内科

1	Wataru Kitamura, Shoichi Kuyama; Paranasal sinus aspergillosis in a patient treated with tirabrutinib International Journal of Hematology. 2022 Nov;116(5):645–646. Epub 2022 Sep 19.
2	Wataru Kitamura , Hiroki Kobayashi, Tomohiro Urata , Yumiko Sato , Yusuke Naoi, Tadashi Yoshino, Yoshinobu Maeda, Shoichi Kuyama ; Benefit of prednisolone alone in nodal peripheral T-cell lymphoma with T follicular helper phenotype Journal of Clinical and Experimental Hematopathology. 2023;63(1):37–42.

小児科

1	Tomohiro Hiraoka, Mai Kawamura, Keisuke Takada, Tadashi Moriwake ; A pediatric case of ureterolithiasis due to cystinuria accompanied by acute appendicitis; a case report International Journal of Surgery Case Reports. 2022 Oct;99:107596. Epub 2022 Sep 5.
---	---

外科

1	Yuki Homma, Itaru Endo, Ryusei Matsuyama, Masayuki Sho, Shugo Mizuno, Yasuji Seyama, Satoshi Hirano, Takashi Aono, Chie Kitami, Yoshifumi Morita, Yutaka Takeda, Kazuhiro Yoshida, Masaji Tani, Takashi Kaiho, Yuzo Yamamoto, Hideki Aoki , Masao Ogawa, Takefumi Niguma, Yuko Matakai, Hiroshi Kawasaki, Hideo Baba, Hiroshi Yokomizo, Toshiki Rikiyama, Hiroki Yamaue, Masakazu Yamamoto; Outcomes of lung metastasis from pancreatic cancer: A nationwide multicenter analysis Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. 2022 May;29(5):552–561. Epub 2022 Mar 6.
2	Hideki Ishikawa, Masayoshi Yamada, Yasushi Sato, Shinji Tanaka, Chino Akiko, Masahiro Tajika, Hisashi Doyama, Tetsuji Takayama, Yoshio Ohda, Takahiro Horimatsu, Yasushi Sano, Kohji Tanakaya , Hiroaki Ikematsu, Yoshihisa Saida, Hideyuki Ishida, Yoji Takeuchi, Hiroshi Kashida, Shinsuke Kiriya, Shinichiro Hori, Kyowon Lee, Jun Tashiro, Nozomu Kobayashi, Takeshi Nakajima, Sadao Suzuki, Michihiro Mutoh, J-FAPP Study III Group; Intensive endoscopic resection for downstaging of polyp burden in patients with familial adenomatous polyposis (J-FAPP Study III): a multicenter prospective interventional study Endoscopy. 2023 Apr;55(4):344–352. Epub 2022 Oct 10.
3	Nobuhiko Kanaya , Hideki Aoki , Toshiaki Morito , Fumitaka Taniguchi , Kunitoshi Shigeyasu , Chieko Tamura, Kokichi Sugano, Kiwamu Akagi, Hideyuki Ishida, Kohji Tanakaya ; Clinical features of biliary tract cancer in Japanese individuals with Lynch syndrome Journal of Gastrointestinal Oncology. 2022 Oct;13(5):2532–2538.
4	Yasuyuki Miyakura, Akiko Chino, Kohji Tanakaya , Alan Kawarai Lefor, Kiwamu Akagi, Akinari Takao, Masayoshi Yamada, Hideyuki Ishida, Koji Komori, Kazuhito Sasaki, Masashi Miguchi, Keiji Hirata, Tomoya Sudo, Toshiaki Ishikawa, Tatsuro Yamaguchi, Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Current practice of colonoscopy surveillance in patients with lynch syndrome: A multicenter retrospective cohort study in Japan DEN Open. 2022 Nov 1;3(1):e179. eCollection 2023 Apr.
5	Michihiro Ishida, Shinji Kuroda, Yasuhiro Choda, Shinya Otsuka, Satoshi Ueyama, Norimitsu Tanaka, Shinji Hato, Toshikazu Kimura, Atsushi Muraoka, Kohji Tanakaya , Tatsuo Matsuda, Hirotohi Takashima, Yasuyuki Nonaka, Hiroshi Ishii, Yasuhiro Shirakawa, Yasuaki Kamikawa, Toshiyoshi Fujiwara; Incidence of Metachronous Remnant Gastric Cancer after Proximal Gastrectomy with the Double-flap Technique (rD-FLAP-rGC Study): A Multicenter, Retrospective Study Annals of Surgical Oncology. 2023 Apr;30(4):2307–2316. Epub 2023 Jan 24.

胸部外科

1	Fumiaki Takatsu, Ken Suzawa, Mikio Okazaki, Kazuhiko Shien, Hiromasa Yamamoto, Mototsugu Watanabe, Makio Hayama, Tsuyoshi Ueno, Ryujiro Sugimoto, Yuho Maki, Toshiya Fujiwara, Riki Okita, Hidetoshi Inokawa, Hiroyuki Tao, Yuji Hiram, Eisuke Matsuda, Kazuhiko Kataoka , Motohiro Yamashita, Yoshifumi Sano, Motoki Matsuura, Hisao Mizutani, Shinichi Toyooka; Clinical Features of Patients With Second Primary Lung Cancer After Head and Neck Cancer Annals of Thoracic Surgery. 2022 May 17;S0003-4975(22)00705-6.
2	Takahashi Y, Watanabe M, Furukawa S, Shiotani T, Kataoka K; A rare presentation of Aspergillus infection: An abscess localized within the pleura Acta Medica Okayama. 2022 Aug;76(4):485–488.
3	Choshi H, Watanabe M, Furukawa S, Shiotani T, Kataoka K; Surgery outcomes for pulmonary metastases from renal cell carcinoma Acta Medica Okayama. 2022 Oct;76(5):585–591.
4	Watanabe M, Kondo K, Furukawa S, Shiotani T, Kataoka K; A case of bronchial atresia treated with right S6 segmentectomy using fluorescence navigation with indocyanine green General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2022 Dec 1;1:585–591
5	Watanabe M, Tanakaya K, Furukawa S, Shiotani T, Sato Y, Taniguchi F, Kanaya N, Aoki H, Sugano K, Ishida H, Akagi K, Kataoka K; Two cases of thymic cancer in patients with Lynch syndrome Internal Medicine. 2023 Feb 15;62(4):649–653. Epub 2022 Jul 29.

脳神経外科

1	<p>Takayuki Kakimoto, Satoshi Murai, Noboru Kusaka, Fukiko Baba, Yohei Inoue, Hayato Miyake, Masato Kawakami, Yukei Shinji, Hisakazu Itami, Shinji Otsuka, Tsukasa Nishiura, Kenji Kawamoto, Tsuyoshi Yamamoto, Nobuhiko Kimura, Kotaro Ogihara; A Case of Tracheo-innominate Artery Fistula after Tracheostomy Successfully Treated with a Covered Stent NMC Case Report Journal. 2023 Feb 23;10:21-25. eCollection 2023.</p>
2	<p>Satoru Yabuno, Takao Yasuhara, Satoshi Murai, Tetsuya Yumoto, Hiromichi Naito, Atsunori Nakao, Isao Date; Predictive Factors of Return Home and Return to Work for Intensive Care Unit Survivors after Traumatic Brain Injury with a Follow-up Period of 2 Years Neurologia medico-chirurgica. 2022 Oct 15;62(10):465-474. Epub 2022 Sep 22.</p>

産科・婦人科

1	<p>Akihide Ohkuchi, Hirotada Suzuki, Keiichi Matsubara, Kazushi Watanabe, Takuya Saitou, Hideyuki Oda, Soichiro Obata, Shinya Kondo, Kiyoshi Noda, Junya Miyoshi, Satoru Ikenoue, Makoto Nomiyama, Hiroyuki Seki, Sachi Sukegawa, Satoshi Ichigo, Hirofumi Ando, Chiho Fuseya, Takuya Shimomura, Rika Suzuki, Kazuya Mimura, Ichiro Yasuhi, Masashi Fukuda, Sumiko Hara, Ryuhei Kurashina, Arihiro Shiozaki, Shigeki Matsubara, Shigeru Saito; Exponential increase of the gestational-age-specific incidence of preeclampsia onset (COPE study): a multicenter retrospective cohort study in women with maternal check-ups at <20 weeks of gestation in Japan Hypertension Research. 2022 Nov;45(11):1679-1689. Epub 2022 Sep 15.</p>
---	--

2.和文論文・著書等（2022年4月～2023年3月）

【著者・タイトル・雑誌名・巻・号・ページ・発行年月】

外科

1	皆木仁志, 青木秀樹, 木村裕司, 谷口文崇, 渡邊めぐみ, 田中屋宏爾	右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後二度の膵切除を行った膵癌の1例	日本臨床外科学会誌	83	7	1352-1357	2022.7
2	小川俊博, 渡邊めぐみ, 土井田進, 皆木仁志, 三宅英樹, 鳩野みなみ, 木村裕司, 谷口文崇, 荒田尚, 勝田浩, 田中屋宏爾, 青木秀樹	切除不能HER2陽性胃癌に対しTrastuzumab+Paclitaxel投与中に胃癌穿孔を来した一例	癌と化学療法	49	13	1452-1454	2022.12
3	田中屋宏爾	II 疾患の解説 2 Lynch症候群	遺伝性腫瘍ケーススタディ100	-	-	36-38	2022.6
4	田中屋宏爾	3 遺伝性腫瘍学の基礎3-2-1代表的な遺伝性腫瘍3-2-1bLynch症候群 (Lynch syndrome)	遺伝性腫瘍専門医テキストブック	-	-	32-34	2022.6
5	田中屋宏爾	3 遺伝性腫瘍学の基礎3-2-1代表的な遺伝性腫瘍3-2-2j 遺伝性Wilms腫瘍 (関連症候群を含む) (hereditary Wilms tumor)	遺伝性腫瘍専門医テキストブック	-	-	93-94	2022.6
6	田中屋宏爾	3 遺伝性腫瘍学の基礎3-2-1代表的な遺伝性腫瘍3-2-2i 遺伝性消化管間質腫瘍 (hereditary gastrointestinal stromal tumor)	遺伝性腫瘍専門医テキストブック	-	-	97-98	2022.6
7	渡邊めぐみ, 土井田進, 皆木仁志, 三宅英樹, 鳩野みなみ, 小川俊博, 木村裕司, 谷口文崇, 荒田尚, 勝田浩, 田中屋宏爾, 青木秀樹	幽門輪近傍の胃GISTに対しinverted LECSを行った1例	癌と化学療法	49	13	1449-1451	2022.12

胸部外科

1	近藤 薫, 渡邊元嗣, 古川真一, 塩谷俊雄, 片岡和彦	外科切除後に診断に至った肺放線菌症の2例	呼吸器外科学会誌	36	5	584-589	2022.07
---	------------------------------	----------------------	----------	----	---	---------	---------

整形外科

1	川田紘己, 黒住堯巨, 岡田芳樹, 林 隆宏, 生田陽彦, 安光正治	大腿骨転子部骨折に対するZNN CM FORTIS ネイルシステムによるanterior support screw(AS2)の使用成績	整形・災害外科	66	2	211-217	2023.2
2	川田紘己, 六車将, 岡田芳樹	大腿骨転子部骨折に対するZNN CM Fortisネイルを使用したanterior support screw(AS2)の挿入の検討	骨折	45	1	117-120	2023.1
3	藤田敦也, 川田紘己, 黒住堯巨, 岡田芳樹, 林 隆宏, 生田陽彦	Femoral Neck Systemの整備保持に関する経時的評価 外反整復とtelescoping量の関連	整形・災害外科	66	1	97-100	2023.1
4	川田紘己, 藤田敦也, 岡田芳樹, 林隆宏, 生田陽彦, 安光正治	高エネルギー外傷による大腿骨骨幹部骨折に対する髓内釘固定術 遷延癒合・偽関節の検討	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	65	4	591-592	2022.7
5	川田紘己, 安光正治, 生田陽彦, 林隆宏, 岡田芳樹	非転位型大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の成績不良因子の検討	中国・四国整形外科学会雑誌	34	1	107-112	2022.4
6	川田紘己, 安光正治, 生田陽彦, 林隆宏, 岡田芳樹	転位型大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の成績不良因子の検討	中国・四国整形外科学会雑誌	34	1	101-105	2022.4

心臓血管外科

1	森岡慧, 大谷悟, 山本剛, 松本泰一郎, 倉田裕次, 木村裕司	下大静脈原発平滑筋肉腫に対して下大静脈人工血管置換術で治療した1例	心臓	55	2	181-185	2023.2
---	----------------------------------	-----------------------------------	----	----	---	---------	--------

放射線科

1	川田まりあ, 矢吹隆行, 和田裕子, 久住研人, 馬場貴大, 平木隆夫	虫道が診断の一助となった宮崎肺吸虫症の1例	臨床放射線	57	9	999-1002	2022.9
---	-------------------------------------	-----------------------	-------	----	---	----------	--------

麻酔科

1	上原健司, 熊野夏美, 森松 堯, 柳田大輔, 久保飛鳥, 井上悠希, 廣井一正	デクスメトミジンのボース投与と初期負荷投与により覚醒時興奮に対処した1症例	麻酔	71	5	542-545	2022.5
2	大村浩之, 金澤伴幸, 小野大輔, 賀来隆治, 日高秀邦, 小野和身, 森松博史	硬膜外麻酔により持続的な下肢運動麻痺, 感覚障害を生じた1症例	麻酔	71	10	1112-1115	2022.10
3	熊野夏美	たかが血圧, されど血圧 直線加圧測定方式非観血血圧測定(iNIBP)を使用してみて	臨床麻酔	46	11	1439-1441	2022.11
4	熊野夏美	進歩する可視化	臨床麻酔	46	10	1335	2022.10
5	熊野夏美	妊婦の自己血輸血における問題への取り組みとそれに付随して思ったこと	臨床麻酔	46	6	851	2022.6
6	熊野夏美	外科系医師へのアンケートを通じた周術期コミュニケーション	臨床麻酔	46	5	718	2022.5
7	熊野夏美	おばあちゃんの知恵袋的工夫 アル綿の空袋を使って	臨床麻酔	46	4	609-610	2022.4

看護部

1	三崎夏江, 蛇原真矢佳, 松永美佳, 橋本さつき, 長福明美	混合病棟で働く看護師に対する産科緊急入院時対応シミュレーション学習の効果	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究会誌	18	-	254-257	2023.1
2	河野眞子, 上田麻純, 古賀綾, 藤山奈々, 上田紗綾香, 森田昌子, 二見容子, 木戸優子	心電図電極による皮膚トラブルを減少させるために2種類の保湿剤を使用して	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究会誌	18	-	139-142	2023.1
3	間萌絵, 家永梨穂, 吉武亮平, 藤井幸恵, 丸石千裕	ブラッドアクセスカテーテルの固定方法の検討 ドレッシング材の剥がれた面積と剥がれた部位、不快感に着目して	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究会誌	18	-	135-138	2023.1
4	中村夕姫乃, 倉田優花, 新田愛子, 松瀬絵理佳, 森田悠, 吉村一徳, 吉本晃子, 並杏子	環境音と光の削減によるICU患者の睡眠援助 耳栓、アイマスクの使用がもたらす効果	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究会誌	18	-	56-59	2023.1

看護学校

1	平田博章, 田窪香織, 河村理恵, 佐々木紀枝, 山中真弓	入学校2ヵ月を経過した看護学生がシミュレーション教育体験による病床環境の観察及び調整に関する判断と学び	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究会誌	18	-	250-253	2023.1
---	-------------------------------	---	--------------------------	----	---	---------	--------

3.学会発表・講演等（2022年4月～2023年3月）

内科

1	白木照夫	新型コロナウイルス感染による緩和ケア病棟の閉鎖により急遽療養の方向転換を行なった3例	第27回日本緩和医療学会学術大会	2022/6/30
2	白木照夫	当院における医師に対するACP普及活動	第27回日本緩和医療学会学術大会	2022/6/30

消化器内科

1	大里俊樹	当院における表在性非乳頭部十二指腸腫瘍に対するUnderwater EMRの現状	第27回山口県治療内視鏡研究会	-
2	毛利謙吾, 亀高大介, 大里俊樹, 石原裕基, 血谷洋祐, 藤本剛, 田中彰一	食道異物を契機に発見に至った好酸球性食道炎の一例	第117回日本消化器病学会中国支部例会	2022/6/11～ 2022/6/12
3	藤本剛	第6回岩国IBD MEETING Web Seminar（岩国市）	司会	2022/6/15
4	藤田敦也, 田中彰一, 大里俊樹, 亀高大介, 石原裕基, 血谷洋祐, 日吉智子, 藤本剛	4.ESDにて診断しえた胃MALTリンパ腫の1例	第128回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2022/7/3
5	石原裕基, 血谷洋祐, 藤本剛, 田中彰一, 加藤博也	当院における総胆管結石治療の現状について	ワークショップ2『総胆管結石治療の現状と展望』	-
6	亀高大介	悪性胸膜中皮腫の小腸転移	第68回山口県胃と腸症例検討会	2022/9/30
7	田口健一	チエノピリジン系抗血小板内服者における大腸ポリペクトミー後出血リスクについて	岩国消化器同好会 岩国市	2022/10/18
8	田中彰一	脳神経内科疾患と慢性便秘症（座長）	岩国市内科医学会学術講演会 岩国市	2022/11/11
9	浜田健太郎, 田中彰一, 田口健一, 亀高大介, 上田英次郎, 石原裕基, 藤本剛, 山崎泰史	10.十二指腸主乳頭近傍のカルチノイドに対してunder-gel EMRにて切除しえた1例	日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2022/12/10～ 2022/12/11
10	石原裕基, 上田英次郎, 藤本剛, 田中彰一, 加藤博也	ERCPによる加療が困難な膵炎に対する超音波内視鏡下膵管ドレナージ術（EUS-guided pancreatic duct drainage: EUS-PD）の治療効果について	ワークショップ2（消化器病学会）	2022/12/10～ 2022/12/11
11	白羽範昭, 田口健一, 亀高大介, 上田英次郎, 石原裕基, 藤本剛, 田中彰一	外来での保存的加療で軽快した特発性腸管囊胞性気腫症の1例	第127回日本内科学会中国地方会	2022/12/17

呼吸器内科

1	馬場貴大	非小細胞肺癌において気管支鏡下生検検体を用いた遺伝子パネル検査の成功割合の検討	第45回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2022/5/28
2	久山彰一	免疫チェックポイント阻害剤と細胞傷害性抗癌剤併用療法にて結核の再燃を認めた1例	第97回 日本結核・非結核性抗酸菌症学会	2022/7/2
3	久山彰一	がん薬物療法	第66回 日本呼吸器内科学会中国・四国地方会	2022/7/9
4	馬場貴大	EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対するABCP療法の効果予測因子の検討	第63回日本肺癌学会学術集会	2022/12/2
5	田村朋季	EGFR変異陽性NSCLCに対するafatinib+bevacizumabまたはafatinibの無作為化比較第Ⅱ相試験：AfaBev-Cs study	第63回日本肺癌学会学術集会	2022/12/3
6	西井和也	EGFR阻害が誘導するEgfr肺癌に対する抗腫瘍免疫を逐次的VEGFR-2/PD-1阻害が増強する	第63回日本肺癌学会学術集会	2022/12/2
7	中嶋章裕	中縦隔リンパ管腫の一切除例	第67回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2022/12/16
8	田村朋季	当院における気管支鏡検査時の迅速ギムザ法を用いた迅速細胞診の試み	第31回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会	2022/12/16
9	村田憲郁	EBUS-TBNAで診断した後縦隔膿瘍の一例	第67回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2022/12/16
10	久山彰一	当院における肺がん薬物療法の選択について～プレジジョンメディシンを考える～	山口県東部肺がん勉強会	2022/4/13
11	久山彰一	総合病院における肺がん診療	肺がんチーム医療オンラインセミナー	2022/4/27
12	久山彰一	NSCLCドライバー遺伝子変異/転座陰性における治療戦略	第1回松江肺がん治療セミナー2022	2022/5/26
13	久山彰一	当院におけるがんゲノム医療の現状について	第3回山口県がんゲノム医療研究会	2022/5/27
14	久山彰一	肺がん治療の現状と、補助療法としての漢方	第370回福山漢方談話会	2022/6/7
15	久山彰一	『当施設での支持療法の現状』座長	Taiho Cancer Care Web Lecture	2022/6/9
16	久山彰一	『入院患者における不眠対策～せん妄リスクの観点から～』座長	岩国睡眠を考える会	2022/6/23
17	久山彰一	肺扁平上皮がん治療戦略に関するディスカッション～ポーターザをどのように組み込むか～	ポーターザ Meeting in 山口	2022/6/24
18	久山彰一	胸部悪性腫瘍に対する複合免疫療法の使用経験	NSCLC IO+IO併用療法 エリアライブセミナー	2022/6/29

19	田村朋季	当院における複合免疫療法の使用経験	非小細胞肺癌 オプジーボ・ヤーボイ併用療法 Hybrid Web セミナー	2022/7/5
20	久山彰一	遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるIMpower150への期待	Lung Cancer Webinar in SHIMONOSEKI	2022/7/22
21	久山彰一	『Nivo+Ipi±化学療法の使用経験から最適な症例を考える』司会	中国・四国Lung Cancer Meeting	2022/7/25
22	久山彰一	公演II『がん患者の痛み～地域でトータルマネジメントする～』座長	岩国地区緩和医療懇話会	2022/8/31
23	田村朋季	当院における肺がんの周術期の薬物治療について	第二回山口県東部 肺がん勉強会	2022/9/5
24	久山彰一	当院における肺がん化学療法の現状	下関肺癌講演会	2022/9/9
25	久山彰一	特別講演1『IV期EGFR遺伝子変異陽性肺癌～オシメルチニブの副作用マネジメント及び適正使用について～』座長	Lung Cancer Expert Symposium	2022/10/3
26	久山彰一	特別公演『高齢者肺癌に対する薬物療法 -up to date-』座長	TAIHO Lung Cancer Web Forum	2022/10/5
27	久山彰一	『EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるタグリッソによる術後補助療法』座長	山口県東部 肺がん講演会	2022/11/17
28	久山彰一	座長	若手医師のためのLung Cancer Training Seminar	2022/11/18
29	久山彰一	『進行性肺線維症を伴う間質性肺炎の最新治療』座長	岩国地区 間質性肺疾患 講演会	2022/11/25
30	久山彰一	当院における肺がん検査精度向上のポイントの取り組み	瀬戸内 肺がん Web Conference	2022/12/13
31	久山彰一	ADAURA試験を臨床に活かすために	山口県肺がん合同講演会	2022/12/14
32	久山彰一	基調講演2『腫瘍微小環境とがん免疫療法』座長	第2回 中国四国 Chugai Lung Cancer Practice Seminar	2023/2/18
33	久山彰一	ALK-TKI耐性変異を考慮したブリグチニブの使用法	Lung Cancer Symposium	2023/2/20
34	久山彰一	『irAE大腸炎について』司会	がん免疫療法関連セミナー～irAE管理を中心に～	2023/2/27
35	久山彰一	『イミフィンジ+イジユド+化学療法！！IV期非小細胞肺癌治療は変わるか？』座長	山口県 東部肺がん講演会	2023/2/28
36	久山彰一	330P - A real-world multi-center prospective observational study of atezolizumab (Atezo) + bevacizumab (Bev) + carboplatin (CBDCA) + paclitaxel (PTX) (ABCP) in patients (pts) with advanced EGFR-mutated (EGFRm) NSCLC after EGFR-TKIs failure	ESMO Asia Congress 2022	2022/12/3

循環器内科

1	河口達登	心タンポナーデを契機に診断した原発性滲出性リンパ腫類似リンパ腫の1例	第126回日本内科学会中国地方会	2022/5/8
2	河口達登	心室瘤を合併した前壁心筋梗塞患者にARNI導入が有効であった1例	第120回日本循環器学会中国四国地方会	2022/5/28
3	河口達登	Rotablator不通過のLAD高度石灰化病変に対して2nd sessionで通過に成功した1例	第28回に本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会	2022/9/4
4	河口達登	三尖弁輪後中隔起源の心房頻拍に刺激伝導系の機能性伝導障害を合併し交代性変行伝導を認めた1例	日本不整脈心電学会中国四国支部地方会	2022/11/5
5	河口達登	右房内占拠性腫瘤により右心不全を呈した1例	第127回日本内科学会中国地方会	2022/12/17
6	河口達登	心タンポナーデを契機に診断した原発性滲出性リンパ腫類似リンパ腫の1例	第44回心筋生検研究会	2022/11/12
7	赤井弘明	CLTIに対してATA治療中に血管穿孔をきたし、PKパピルスにてbail outに成功した1例	第120回日本循環器内科学会中国四国地方会	2022/5/28
8	和田匡史	カテーテルアブレーション治療患者における背景因子と塩分摂取量の関連についての検討	第76回 国立病院総合医学会	2022/10/7
9	和田匡史	糖尿病を合併したカテーテルアブレーション治療患者の食習慣と背景因子についての検討	第66回 日本糖尿病学会 中国地方会	2022/11/11
10	和田匡史	一般市中病院で経験する成人先天性心疾患に合併する頻脈性不整脈への治療戦略	第121回日本循環器学会中国地方会	2022/11/26
11	和田匡史	在宅強心薬点滴による心不全緩和ケアの経験	日本心臓リハビリテーション学会第8回中国支部地方会	2022/11/26
12	高山伸	急性心筋梗塞の血栓量の多い拡張病変に対してELCAを使用した一例	Alliance for Revolution and Interventional cardiology Advancement 2022	2022/11/19
13	高山伸	急性広範前壁心筋梗塞に対する冠動脈造影検査で心原性脳塞栓症を発症し経皮的冠動脈形成術に引き続いて血栓回収療法を施行した1例	第28回日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会	2022/9/3
14	竹谷菜子	診断に苦慮した左室右房交通症の一例	第121回日本循環器学会中国地方会	2022/11/26
15	大谷武史	冠攣縮性狭心症を合併した下大静脈欠損を伴う多脾症候群の1例	第127回日本内科学会中国地方会	2022/12/17
16	大塚寛昭	総大腿動脈閉塞を合併した浅大腿動脈閉塞病変に対し、外科的内膜摘除術の後にEVTを施行し、薬剤コーティングバルーンを使用して血行再建に成功した二例の検討	第28回日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会	2022/9/3
17	片山祐介	Evaluation of the effect of OAS on coronary calcified plaque by using OFDI	第30回日本心血管インターベンション治療学会	2022/7/22

18	片山祐介	Basics of orbital atherectomy	Complex Cardiovascular Therapeutics 2022	2022/10/29
19	片山祐介	Pitfalls in PCI for LAD-jp CTO	第28回日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会	2022/9/3
20	齊藤宇亮	チーム医療で乗り越えたCLTIの1例	第28回日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会	2022/9/4
21	齊藤宇亮	Entrainment pacingを用いて確定診断に至ったOrthodromic Reciprocating Tachycardiaの1例	第3回日本不整脈心電学会中国・四国支部地方会	2022/10/28
22	齊藤宇亮	心房細動に対するカテーテルアブレーション中に広範囲誘導でST上昇をきたし冠攣縮の関与が疑われた1例	第121回日本循環器学会中国地方会	2022/11/26

小児科

1	守分正	Rubinstein-Taybi症候群の女児例	第140回日本小児科学会山口地方会	2022/7/24
2	守分正	1型糖尿病におけるPoor adherenceの2例	第141回日本小児科学会山口地方会	2022/12/18
3	河村麻衣, 守分正	心室中隔欠損症の見つかり方から考える小児科医による2週間・1か月健診の意味	第141回日本小児科学会山口地方会	2022/12/18

外科

1	青木秀樹	Study on hepaticojejunostomy stricture after pancreatoduodenectomy	第34回 日本肝胆膵外科学会	2022/6/10
2	青木秀樹	通常型膵管癌切除例における術中輸血の影響	第77回 日本消化器外科学会	2022/7/21
3	三宅英輝	当院における閉塞性大腸癌に対するbridge to surgery戦略の現状	第35回 日本内視鏡外科学会	2022/12/8
4	皆木仁志	Prognostic Impact of Intraoperative Allogenic Blood Transfusion by Blood Product Type in Hepatocellular Carcinoma	第34回 日本肝胆膵外科学会	2022/6/10
5	皆木仁志	肝細胞癌手術において術中輸血は予後に影響を与えるか？	第77回 日本消化器外科学会	2022/7/21
6	皆木仁志	悪性黒色腫胆嚢転移の1例	第84回 日本臨床外科学会	2022/11/24
7	皆木仁志	副交通胆管枝(communicating accessory bile duct)を有する胆嚢結石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例	第35回 日本内視鏡外科学会	2022/12/9
8	土井田進	Intracholecystic papillary neoplasm の一例	第122回 日本外科学会	2022/4/14
9	土井田進	虫垂炎手術を契機に診断された虫垂腫瘍の臨床病理学的特徴	第35回 日本内視鏡外科学会	2022/12/8
10	土井田進	突然の腹痛で発症し血種との鑑別を要した巨大嚢胞性GISTの一例	第84回 日本臨床外科学会	2022/11/24

11	土井田進	S状結腸癌の肛門外脱出を伴う腸重積の2例	第80回 山口臨床外科学会	2022/6/4
12	土井田進	4型胃癌との鑑別を要した乳癌胃転移の2例	第95回 胃癌学会	2023/2/25
13	勝田浩	進行食道癌に対する術前化学療法の比較検討	第76回 日本食道学会	2022/9/24
14	小川俊博	切除不能HER2陽性胃癌に対しTrastuzumab+Paclitaxel投与中に胃癌穿孔を来した一例	第44回 癌局所療法研究会	2022/7/1
15	小川俊博	Laparoscopic subtotal gastrectomy prevent sarcopenia after total gastrectomy	第77回 日本消化器外科学会	2022/7/20～ 2022/7/22
16	小川俊博	食道癌術後再発に対しNivolumab投与中にDKAを伴う1型糖尿病を発症した1例	第76回 日本食道学会	2022/9/24～ 2022/9/26
17	小川俊博	当院における食道癌術後合併症低下への取り組み NIMの導入とICGによる胃管血流評価	第21回 岡山EGI研究会（第21回EGI外科治療研究会）	2022/10/8
18	小川俊博	当院における食道癌手術の現状～周術期管理から手術手技まで～	第13回 瀬戸内食道外科セミナー	2023/1/7
19	小川俊博	魚骨の十二指腸穿通による後腹膜膿瘍に対し保存的加療を行った1例	第59回 日本腹部救急医学会総会	2023/3/10
20	小川俊博	SOX療法による術前化学療法を施行しpCRが得られたAFP産生胃癌の1例	第95回 日本胃癌学会総会	2023/2/24
21	木村裕司	Analysis of bile leakage after hepatectomy	第34回 日本肝胆膵外科学会	2022/6/10
22	木村裕司	当院の脾頭十二指腸切除術後脾液瘻の検討	第35回 日本外科感染症学会	2022/11/8
23	谷口文崇	高齢化社会における進行再発大腸癌 予後因子の解析	第122回 日本外科学会	2022/4/14～ 2022/4/16
24	谷口文崇	リンチ症候群における大腸外関連腫瘍の発生リスク ー大腸癌研究会多施設共同後方視的観察研究ー	第28回 日本遺伝性腫瘍学会	2022/6/17
25	谷口文崇	傾向スコアマッチングを用いたMSI-H大腸癌の臨床病理学的特徴	第97回 大腸癌研究会	2022/7/7～ 2022/7/8
26	谷口文崇	閉塞性大腸癌に対するbridge to surgery戦略の現状と短期・長期成績	第77回 日本消化器外科学会	2022/7/21
27	谷口文崇	右側大腸がんの臨床病理学的特徴と腹腔鏡下右結腸切除術D3郭清の意義	第35回 日本内視鏡外科学会	2022/12/10
28	田中屋宏爾	Lynch症候群における飲酒と発癌リスク	第122回 日本外科学会定期学術集会	2022/4/15
29	田中屋宏爾	Lynch症候群における尿路上皮癌の検討	第28回 日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2022/6/17

30	田中屋宏爾	リンチ症候群の大腸内視鏡サーベイランスで留意すべき大腸病変—大腸癌研究会他施設共同研究におけるバリエーション別評価—	第28回 日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2022/6/17
31	田中屋宏爾	Lynch症候群患者における大腸癌術後の異時性大腸腫瘍に関する検討 散発性大腸癌症例との比較検討(多施設共同コホート試験)	第97回 大腸癌研究会学術集会	2022/7/8
32	田中屋宏爾	リンチ症候群におけるpost-colonoscopy colorectal cancerの臨床病理学的特徴	第97回 大腸癌研究会学術集会	2022/7/8
33	田中屋宏爾	大腸切除歴のないリンチ症候群患者における大腸癌および腺腫の累積発生リスク	第97回 大腸癌研究会学術集会	2022/7/8
34	田中屋宏爾	リンチ症候群に対する下部消化管内視鏡検査の質と安全性の検討 遺伝性大腸癌委員会多施設共同研究	第97回 大腸癌研究会学術集会	2022/7/8
35	田中屋宏爾	家族性大腸腺腫症患者における胃腺腫、胃癌の発生に関する検討：(他施設共同コホート試験)	第84回 日本臨床外科学会総会	2022/11/24
36	荒田 尚	神経線維腫症1型に合併した異時性両側乳癌の1例	第19回 日本乳癌学会中国四国地方会	2022/9/24
37	渡邊めぐみ	80歳以上の高齢者胃癌における治療戦略の工夫	第122回 日本外科学会総会	2022/4/15
38	渡邊めぐみ	腹腔鏡下胃癌手術における十二指腸断端埋没手技の工夫	第76回 手術手技研究会	2022/5/20
39	渡邊めぐみ	幽門輪近傍の胃GISTに対しinverted LECSを行った1例	第44回 癌局所療法研究会	2022/7/1
40	渡邊めぐみ	Perioperative Nutritional Intervention for Gastric Cancer Patients	第77回 日本消化器外科学会総会	2022/7/21
41	渡邊めぐみ	術前血管3Dシミュレーションに基づいた腹腔鏡下胃癌手術の郭清手技	第97回 中国四国外科学会	2022/9/16
42	渡邊めぐみ	肥満症例における腹腔鏡下胃癌手術の工夫	第21回 岡山EGJ研究会	2022/10/8
43	渡邊めぐみ	胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡・腹腔鏡合同手術の工夫と早期胃癌治療への応用	第52回 胃外科術後障害研究会	2022/11/19
44	渡邊めぐみ	腹腔鏡下噴門側胃切除術・観音開き法再建における吻合部関連合併症を防ぐ手技の工夫	第35回 日本内視鏡外科学会総会	2022/12/10
45	渡邊めぐみ	高齢者胃癌に対する胃切除術の適応と周術期管理	第95回 日本胃癌学会総会	2023/2/24
46	村田憲郁	肺癌・胸膜播種治療中の早期胃癌症例に対しclosed LECSを行った一例	第95回 日本胃癌学会総会	2023/2/25
47	渡邊めぐみ	体腔内観音開き法再建における術後吻合部狭窄を防ぐ手技の工夫	第58回 広島内視鏡下外科手術研究会	2023/3/17

胸部外科

1	渡邊元嗣	Srage IA肺癌患者手術症例における術前呼吸機能と術後予後の検討	第39回 日本呼吸器外科学会学術集会	2022/5/20
2	塩谷俊雄	急性膿胸手術症例におけるPrognostic nutritional indexの検討	第39回 日本呼吸器外科学会学術集会	2022/5/20
3	古川真一	肋骨原発軟骨肉腫に対して広範切除を施行し長期無再発生存が得られた一例	第39回 日本呼吸器外科学会学術集会	2022/5/20
4	近藤 薫	IgG4関連肺炎炎症性偽腫瘍術後ステロイド加療中に遅発性気管支断端瘻を発症した一例	第39回 日本呼吸器外科学会学術集会	2022/5/20
5	中嶋章裕	多形癌と肺腺癌の衝突癌の一例	第39回 日本呼吸器外科学会学術集会	2022/5/20
6	近藤 薫	拡大胸腺摘出術後胸骨離開を来した一例	第80回 山口県臨床外科学会	2022/6/29
7	渡邊元嗣	当院における肺がんの手術手技について	第2回 山口県東部肺がん勉強会	2022/9/5
8	近藤 薫	急速増大を呈した粘液産生を伴うSolitary fibrous tumorの一例	第66回 中四国呼吸器学会	2022/7/9
9	近藤 薫	術前に右胸壁腫瘍が疑われた右胸腔内遊離体の一例	第97回 中四国外科学会	2022/9/15
10	塩谷俊雄	Decreased prognostic nutritional index is a risk factor of postoperative complication for spontaneous pneumothorax in elderly patients	第75回 日本胸部外科学会定期学術集会	2022/10/6
11	白羽範昭	ペムプロリズマブ長期投与後に左上葉肺癌に対してサルベージ手術を行った1例	第84回 日本臨床外科学会総会	2022/11/25
12	園部奏生	縦郭から頸部まで広がった脂肪肉腫を他科と協力して切除した一例	第84回 日本臨床外科学会総会	2022/11/25
13	中嶋章裕	中縦隔リンパ管腫の一切除例	第67回 中四国呼吸器学会	2022/12/17
14	近藤 薫	転移性肺腫瘍に対し胸腔鏡下S7区域切除術を施行した一例	第26回 岡山大学外科MCセミナー	2023/2/18
15	近藤 薫	転移性肺腫瘍に対し胸腔鏡下S7区域切除術を施行した一例	第32回 山口県呼吸器外科研究会	2023/3/4

整形外科

1	大谷武史	脂肪塞栓症を合併した大腿骨骨幹部骨折の1例	第157回山口県整形外科医会	2022/11/26
2	佐藤嘉洋	当院における大腿骨近位部骨折に対する手術加療までの期間の検討	第157回山口県整形外科医会	2022/11/26
3	生田陽彦	妊娠後骨粗鬆症により多発椎体骨折をきたした1例	第157回山口県整形外科医会	2022/11/26
4	佐藤嘉洋	近位骨片の粉碎を認める人工股関節周囲骨折に対するrevision THAの1例	第28回THA懇話会	2022/7/23
5	佐藤嘉洋	近位骨片の粉碎を認める人工股関節周囲骨折に対するrevision THAの1例	第55回中国・四国整形外科医会	2022/11/19

形成外科

1	川本幸司、古谷春乃、高野英実、青雅一	成人の涙道由来嚢胞の1例	第81回中国・四国形成外科学会	2022/9/4
2	青雅一	医者の話 - 医者ってなんだ?! -	岩国市立東中学校 職業講話	2023/2/2

脳神経外科

1	馬場美希子	アテローム血栓性脳梗塞に対する急性期再開通療法の治療成績	第38回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2022)	2022/11/1
2	馬場美希子	両側前方循環にblebを伴う動脈瘤を認め治療方針に苦慮したくも膜下出血の1例	第135回山口県脳神経外科談話会	2023/1/14
3	田村 遼	毛様細胞性星細胞腫が疑われた高齢者の充実性小脳腫瘍の1例	第94回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	2022/12/3
4	伊丹尚多	血栓回収術を受けた90歳以上の超高齢者における急性期脳梗塞の予後に関する検討	第38回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022/11/10
5	三宅隼人	胸部脊柱管硬膜外自家血注入療法と開頭による髄液耳漏閉鎖術によって治癒を得られた特発性気脳症、脳脊髄液漏出症の1例	第134回 山口県脳神経外科談話会	2022/6/4
6	三宅隼人	特発性気脳症及び脳脊髄液漏出症に対して胸部脊柱管硬膜外自家血注入療法並びに髄液耳漏閉鎖術を施行して治癒を得られた1例	日本脳神経外科学会第81回学術総会	2022/9/28
7	柿本昂佑樹	気管切開後の気管腕頭動脈瘤に対してcovered stent留置で止血を得た1例	第93回(一社)日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	2022/4/2

8	井上陽平	頭痛のみで発症した片側頭蓋内椎骨動脈解離に続発し、対側に急速に進行した動脈解離性狭窄に対してステント留置術を施行した1例	日本脳神経外科学会第81回学術総会	2022/9/28
9	村井 智	10分でわかる！血栓回収療法のエビデンスと適応	岡山血管内治療研究会	2022/5/28
10	村井 智	高齢者のmedium vessel occlusion (MeVO)に対する急性期再開通療法の治療成績	第38回日本脳神経血管内治療学会学術集	2022/11/10
11	村井 智	くも膜下出血後脳血管攣縮に対する積極的血管内治療の治療成績	STROKE2023	2023/3/16
12	荻原浩太郎	骨折椎体を亜全摘し多椎間固定を行った頸椎脱臼の2例	第37回日本脊髄外科学会	2022/6/16
13	荻原浩太郎	前方固定術を行ったC6teardropfractureの1例	第18回中国四国脊髄外科症例検討会	2022/12/17
14	荻原浩太郎	C2-T1 lineを用いたC7部分椎弓切除術	第17回中国四国脊髄外科症例検討会	2022/7/2

心臓血管外科

1	倉田裕次	Trifecta弁による大動脈弁位人工弁置換術後に早期人工弁機能不全を来した症例の検討	第120回日本循環器学会中国四国合同地方会	2022/5/28
---	------	---	-----------------------	-----------

泌尿器科

1	藤井孝法	膀胱癌、左腎癌に対して膀胱全摘・腎部分切除術を施行し偶発前立腺癌を認めた1例	第331回日本泌尿器科学会岡山地方会	2022/5/21
2	中田哲也	当センターでのオプジーボ+ヤーボイ併用療法の使用経験	山口県東部RCCセミナー	2022/6/17
3	中田哲也	当センターにおけるロボット支援仙骨腫固定術（RASC）の導入経験	第24回日本女性骨盤底医学会	2022/7/2
4	寺本友真	筋層浸潤性膀胱癌形質細胞様型に対し2nd-Line Pembrolizumab療法後に膀胱全摘を行った1例	第332回日本泌尿器科学会岡山地方会	2022/9/17
5	中田哲也	当院におけるロボット支援仙骨腫固定術（RASC）の導入経験	第72回日本泌尿器科学会中部総会	2022/10/8
6	寺本友真	深部静脈血栓症を来した3a型腎外傷の1例	第74回西日本泌尿器科学会総会	2022/11/4
7	藤井孝法	尿膜管癌の1例	第74回西日本泌尿器科学会総会	2022/11/5
8	中田哲也	当院におけるロボット支援仙骨腫固定術（RASC）の導入経験	第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス	2022/11/1
9	中田哲也	2022年 NHO岩国医療センター 手術統計	第334回日本泌尿器科学会岡山地方会	2023/2/25

10	中田哲也	当院におけるロボット支援仙骨脛固定術（RASC）の導入経験	第30回山口泌尿器内視鏡研究会	2023/3/25
----	------	-------------------------------	-----------------	-----------

産婦人科

1	杉井裕和	Lynch症候群における婦人科癌の検討	第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2022/6/17～ 2022/6/18
2	兼森美帆	アンチトロンビンIII欠損症（ATIII欠損症）合併妊娠をATIII製剤を用いて周産期管理した一例	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	2022/7/10～ 2022/7/12
3	杉井裕和	骨盤臓器脱患者の受診経路と転帰に関する検討	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	2022/8/5～ 2022/8/7
4	杉井裕和	産科関連の致死的救急疾患 ～救急搬送症例を中心に～	東部地域メディカルコントロール協議会	2022/9/15
5	杉井裕和	原因不明の妊産婦死亡事例を経験して -死因究明における病理解剖の意義-	第70回広島島新生児研究会	2022/11/12
6	杉井裕和	どうしてますか？切迫早産管理	令和4年度 山口県産婦人科医会勤務医部会研修会	2022/11/17

耳鼻咽喉科

1	野田実里	当科における鼻副鼻腔悪性黒色腫7例の臨床的検討	61回日本鼻科学会	2022/10/15
---	------	-------------------------	-----------	------------

救急科

1	宮内崇	高齢化の進む地方都市における救急医療の実際と課題	第50回日本救急医学会	2022/10/19～ 2022/10/21
---	-----	--------------------------	-------------	---------------------------

放射線科

1	矢吹隆行	大網仮性動脈瘤の1例	第81回 岡山血管造影・INTERVENTIONAL RADIOLOGY研究会	2022/6/24
2	矢吹隆行	胃出血に対して、脾動脈塞栓術を施行した3例	第35回 中国四国IVR研究会	2022/9/30
3	久住研人	呼吸性移動対策についての検討	第58回 岡山放射線腫瘍学カンファレンス	2022/11/13

麻酔科

1	上原 健司	腹臥位手術において気管チューブが口腔内で屈曲し、換気困難となった1症例	日本臨床麻酔学会 第42回大会	2022/11/12
2	上原 健司	透析患者におけるレミマゾラム全身麻酔の一例	日本臨床麻酔学会 第42回大会	2022/11/11
3	船越英丸, 大村浩之, 申 美和, 廣井一正, 熊野夏美, 上原健司	気管切開閉鎖術後患者において気管憩室により挿管困難を来した一例	日本麻酔科学会 2022年度支部学術集会	2022/9/2～ 2022/10/3
4	市瀬 仁, 申 美和, 大村浩之, 熊野夏美, 上原健司	ロクロニウムの効果部位濃度とTOFカウント2の関係	日本麻酔科学会 2022年度支部学術集会	2022/9/2～ 2022/10/3

病理診断科

1	村本将太	応用編 その1	臨床検査技師実習技能研修Ⅲ（細胞診）	2022/11/17
2	村本将太	上部尿路癌における細胞診断の補助手法としてのKi-67,p53免疫染色の有用性	第108回山口県臨床細胞学会学術集会	2023/3/5
3	佐藤由美子	病理解剖により診断に至った妊娠オウム病の一例	第68回 日本病理学会 秋季特別総会	2022/11/17

薬剤部

1	松本拓真	オピオイド鎮痛薬使用患者におけるナルデメジン開始時期と下痢の発現に関する後方指摘検討	第15回日本緩和医療学会	2022/5/14～ 2022/5/15
2	西本 凜	緩和ケア病棟入棟患者におけるPaPスコアを用いた予後予測を行うことの有用性の検証	第15回日本緩和医療薬学会年会	2022/5/14～ 2022/5/15
3	武良卓哉	当院における、がん治療への薬剤師のかかわり	2022年度第2回山口県病院薬剤師会学術講演会	2022/5/17
4	小川喜通	経口抗がん剤の適正使用について	岩国薬剤師会生涯教育研修会	2023/7/12
5	松本拓真	当院におけるG-CSF製剤の使用状況について	G-CSF講演会	2022/7/15

6	池田雛子	抗がん剤調製室の床面清掃に関するフィルター抽出法を用いた調査	第60回 中国四国地区国立病院 薬学研究 会	2022/9/6～ 2022/9/20
7	田中暁子	オピオイド鎮痛薬服用患者におけるナルデメジン導入時期と下痢の発現状況との関連性の検討	第60回 中国四国地区国立病院薬学研究 会	2022/9/6～ 2022/9/20
8	松本拓真	緩和ケアチームにおける薬剤師の役割	薬剤師連携セミナー in岩国	2022/9/20
9	河田武志	岩国医療センターにおける薬剤師のAST活動	第77回 国立病院総合医学会	2022/10/20～ 2022/10/21
10	河田武志	処方箋への検査値記載導入におけるLVFXに対する腎機能を考慮した処方提案	第16回日本腎臓病薬物療法学会学 会	2022/10/29～ 2022/10/30
11	梶原敬悟	血液がん患者における血清クレアチニン値、血清シスタチン値を用いた腎機能推算式の有用性の検討	第16回腎臓病薬物療法学会 学術集会	2022/10/29～ 2022/10/30
12	河田武志	経皮的カテーテル心筋焼灼術パスでの予防抗菌薬投与変更における評価	第70回日本化学療法学会西日本支部総 会	2022/11/3～ 2022/11/5
13	小川喜通	病院薬剤師の新たな取り組み～薬剤師外来の導入について～	第61回日本薬学会・日本薬剤師会・日 本病院薬剤師会 中国四国支部学術大 会	2022/11/5
14	西本 凜	循環器病棟における薬剤師の介入	薬剤師連携セミナー in岩国	2022/12/22
15	牧野華子	服薬アドヒアランス不良な心不全患者に対する当院でのアプローチ	薬剤師連携セミナー in岩国	2023/2/21
16	松本拓真	制吐療法について	薬剤師連携セミナー in岩国	2023/3/22
17	濱岡照隆	岩国医療センターとのがん診療連携について	岩国医療センターがん化学療法研修 会	2023/3/24
18	武良卓哉	がん化学療法レジメンについて	岩国医療センターがん化学療法研修 会	2023/3/24

臨床検査科

1	村本将太	上部尿路癌における細胞診断の補助手法としてのKi-67,p53免疫染色の有用性	第108回山口県臨床細胞学会学術集会	2023/3/5
2	瀧口淳子	機器更新による業務効率化について	第10回国立病院臨床検査技師協会中国 四国支部学会	2022/9/17

放射線科(技師)

1	山根 明哲	・放射線治療診療開始前支援報告 ・スプレッドシートを使用したMU校正 ・IGRTガイドライン2019について	令和4年度中国四国グループ診療放射 線技師スキルアップ研修(放射線治療 技術)	2023/2/23
2	山根 明哲	治療プランのチェックと発見したエラー	第41回 山口県放射線治療研究会	2022/9/10
3	三好 雄大	画像等手術支援加算：K939取得の取り組み	令和4年度第1回岩国地区講習会	2022/10/24

リハビリテーション科

1	田坂優騎	大腿骨骨幹部骨折を受傷し早期から膝関節可動域に対して介入したが可動域の改善に難渋した症例	第31回山口県理学療法学会	2022/11/27
---	------	--	---------------	------------

栄養管理室

1	福田 優香	食道癌術前における栄養介入の効果についての検討(第1報)	第26回日本病態栄養学会年次学術集会	2023/1/13
2	竹中 理恵	カテーテルアブレーション治療患者における背景因子と塩分摂取量の関連についての検討	第76回国立病院総合医学会	2022/10/7
3	竹中 理恵	糖尿病を合併したカテーテルアブレーション治療患者の食習慣と背景因子についての検討	日本糖尿病学会中国四国地方会第60回総会	2022/11/12

看護部

1	中村夕姫乃	環境音と光の削減によるICU患者の睡眠援助 —耳栓、アイマスクの使用がもたらす効果—	第18回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	2022/9/10
2	三崎夏江	混合病棟で働く看護師に対する産科緊急入院時対応 —シミュレーション学習の効果—	第18回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	2022/9/10
3	間 萌絵	ブラッドアクセスカテーテルの固定方法の検討 —ドレッシング材の剥がれた面積と剥がれた部位、不快感に着目して—	第18回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	2022/9/10
4	河野真子	心電図電極による皮膚トラブルを減少させるために —2種類の保湿剤を使用して—	第18回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	2022/9/10
5	藤川奈々子	NICUでの充実した退院指導パンフレットの改訂 —退院後のアンケート調査を通して—	第31回日本新生児看護学会学術集会	2022/11/26

4. 特定臨床研究一覧（課題名、研究母体、責任医師）

呼吸器内科

1	AfaBev vs Afa	活性型EGFR遺伝子変異を有する進行・再発非小細胞癌患者に対する一次治療としてのアファチニブ+ペバシズマブ併用療法とアファチニブ単剤療法のランダム化第II相試験	岡山大学病院	久山彰一
2	J-SONIC	特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル+ニンテダニブ療法とカルボプラチン+nab-パクリタキセル療法のランダム化第III相試験	九州大学病院	久山彰一
3	LOGIK1603 (Ocean Study)	脳転移（放射線未治療）のあるT790M陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの第II相試験	長崎大学病院	久山彰一
4	NEJ039A	根治照射可能なIII期非小細胞肺癌でPS2あるいは高齢者に対する低用量カルボプラチン連日投与と胸部放射線同時併用療法後、デュルバルマブ維持療法の第II相試験	埼玉医科大学 国際医療センター	久山彰一
5	HeaT ON BeaT	EGFR遺伝子変異陽性 再発・進行非小細胞肺癌患者対象の AfatinibまたはOsimertinibを一次治療とした無作為化非盲検第II相試験	帝京大学医学部附属病院 内科学講座	久山彰一
6	OLCSG 2002 EPAS試験	71歳以上の化学療法未治療進展型小細胞肺癌患者を対象とした、カルボプラチン、エトポシド、アテゾリズマブの併用投与（CBDCA/ETP/Atezo療法）の有効性及び安全性を検討する国内第II相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
7	TORG1938 EPONA study	中枢神経系への転移を有するEGFR遺伝子変異陽性の患者でオシメルチニブが無効となった患者に対して、白金製剤+ペメトレキセドと白金製剤+ペメトレキセド+オシメルチニブの比較試験	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	久山彰一
8	ACHILLES 試験 /TORG1834	Sensitizing EGFR uncommon mutation 陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfatinibとChemotherapyを比較する第III相試験	新潟県立がんセンター 新潟病院	久山彰一
10	Samurai 1901	局所進行期非小細胞肺癌に対するCDDP + S-1併用化学放射線治療後のDurvalumab維持療法（第II相試験） Samurai 1901	帝京大学医学部	久山彰一
11	LOGIK2002 RESTART	腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第II相試験	九州大学病院呼吸器科	久山彰一
12	NHO-Pembro-NSCLC	PD-L1発現50%以上の非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ単剤とペムブロリズマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド併用療法のランダム化第3相試験	名古屋医療センター 呼吸器内科・腫瘍内科	久山彰一
13	RELAY Effusion	胸水合併EGFR遺伝子変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの単群第II相試験 -RELAY-Effusion-	大阪公立大学医学部附属病院 呼吸器内科	久山彰一
14	免疫グロブリン療法 (IVIg)	特発性肺線維症急性増悪における免疫グロブリン療法の有効性の検討	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
15	LOGIK2102 (FINE TUNE)	TTF-1陰性の進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第II相試験	九州大学病院呼吸器科	久山彰一
16	GJG-trial	パクリタキセルを含む化学療法における化学療法誘発性末梢神経障害に対する牛車腎気丸の予防投与の有効性を検討する非盲検無作為化第II相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一

循環器内科

1	STOPDAPT-2	エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後のDAPT期間を1ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究	京都大学大学院 医学研究科	片山祐介
2	STOPDAPT-2 ACS	急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法（DAPT）期間を1ヵ月に短縮することの安全性を評価する研究	京都大学大学院 医学研究科	片山祐介
3	OPTIVUS	OPTIVUS-Complex PCI : Optimal Intravascular Ultrasound Guided Complex Percutaneous Coronary Intervention study (至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究)	京都大学大学院 医学研究科	片山祐介
4	GOREISAN-HF	うっ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究	一般財団法人 生産開発科学研究所	川本健治

外科

1	JFMC46-1201	再発危険因子を有するStage II 大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究	東海大学医学部 付属病院	青木秀樹
2	PARADIGM study	RAS 遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6 + ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6 + パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験	国立がん研究センター 東病院	田中屋宏爾
3	J-FAPP Study V	家族性大腸腺腫症患者への低用量アスピリンによる単一介入臨床試験	京都府立医科大学付属病院 消化器内科	田中屋宏爾

消化器内科

1	cAIM study	インジゴカルミンと酢酸インジゴカルミン混合液(AIM)の右側結腸の大腸鋸歯状病変診断における有用性を探索する多施設共同オープンラベル単盲検ランダム化並行群間比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	田中彰一
1	BRAVE study	高度肝門部悪性胆管狭窄に対する金属ステントを用いた両葉2領域と3領域ドレナージの多施設共同無作為化比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	石原裕基

産婦人科

1	PPP Trial	プロバイオティクスの自然早産予防効果を評価する多施設共同オープンラベル試験	富山大学 産科婦人科医局	杉井裕和
---	-----------	---------------------------------------	--------------	------

5.臨床研究一覧(課題名、研究母体、責任医師)

呼吸器内科

1	LC-SCRUM-Advantage/MRD	肺癌における周術期個別化医療の確立を目指した遺伝子スクリーニングと微小残存病変のモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山彰一
2	LC-SCRUM-Asia	アジア人の非小細胞肺癌における 個別化医療の確立を目指した、 遺伝子スクリーニング と モニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山彰一
3	LC-SCRUM-TRY	非小細胞肺癌における薬物治療耐性後 の個別化医療の確立を目指した、 遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山彰一
4	SCRUM-Japan Registry	SCRUM-Japan疾患レジストリを活用した新薬承認審査時の治験対照群データ作成のための前向き多施設共同研究	国立がん研究センター東病院	久山彰一
5	NEJ031	食欲不振を呈する進行肺がん患者に対する異なる用量のステロイド療法の有効性と安全性を検討する無作為化第Ⅱ相試験	東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野	久山彰一
6	CS-Lung-003 STUDY	肺癌診療の実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究	岡山大学病院 新医療研究開発センター	久山彰一
7	CS-Lung Rare	希少な呼吸器疾患の診療実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
8	IPAF	特発性器質化肺炎におけるIPAFの頻度および臨床像の検討	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
9	DILD-FeNO	薬剤性肺障害の診断や予後予測とFeNOの相関性の解析	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科 妹尾 賢、肥後寿夫、宮原信	久山彰一
10	Lorlatinib	血漿中DNAによるロルラチニブの効果予測に関する研究	近畿大学医学部 外科学講座 呼吸器外科部門	久山彰一
11	COVID-19 Registry	COVID-19に関するレジストリ研究	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	久山彰一
12	ABRAID study /WJOG11919L	ALK 陽性進行期非小細胞肺癌に対するアレクチニブ治療後2 次または3 次治療としてのブリグチニブ多施設共同前向き観察研究	和歌山県立医科大学付属病院	久山彰一
13	NEJ058A	悪液質を伴う非小細胞肺癌に対するアナモレリン+免疫チェックポイント阻害薬(イピリムマブ+ニボルマブ)の第Ⅱ相試験	春日部市立医療センター 呼吸器内科	久山彰一
14	JME-003	切除不能な悪性胸膜中皮腫患者に対する、実地臨床下でのイピリムマブ・ニボルマブ併用療法の有効性と安全性を評価する多施設共同前向き観察研究	岡山労災病院腫瘍内科部長 アスベスト疾患研究・研修センター	久山彰一
15	NEJ059	EGFRを除くドライバー遺伝子変異/転座陽性肺癌における免疫チェックポイント阻害薬治療の実態調査	順天堂大学医学部附属順天堂医院 呼吸器内科	久山彰一
16	PS不良EGFR-TKI後ろ向き	PS不良EGFR遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するゲフィチニブとオシメルチニブを比較する後ろ向き研究	島根大学医学部附属病院	久山彰一
17	J-CURE	切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究	イーピーエス株式会社	久山彰一
18	AYAME study	切除不能ステージⅢ非小細胞肺癌患者における同時化学放射線療法後のデュルバルマブの長期安全性及び有効性に関する観察研究	アストラゼネカ株式会社メディカル本部エビデンス&オペザベーションリサーチ (EOR)	久山彰一
19	ALCURE-Study	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者に対するアレクチニブの多施設共同観察研究	公益財団法人がん研究会 がん化学療法センター	久山彰一

20	Gio-Tag Japan	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるアファチニブからオシメルチニブへの逐次投与の有効性を評価する多施設共同前向き観察研究	宝塚市立病院 腫瘍内科	久山彰一
21	Gio-Tag Japan 附随研究：金沢大学	EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるアファチニブからオシメルチニブへの逐次投与の有効性を評価する多施設共同前向き観察研究 (Gio-Tag Japan)におけるCell free DNA を用いたバイオマーカー探索研究【附随研究1：Gio-Tag Japan附随研究_金沢大学】	金沢大学附属病院 呼吸器内科	久山彰一
22	Gio-Tag Japan 附随研究：兵庫医科大学	EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるアファチニブからオシメルチニブへの逐次投与の有効性を評価する多施設共同前向き観察研究 (Gio-Tag Japan) における附随研究【附随研究2：Gio-Tag Japan附随研究_兵庫医科大学】	兵庫医科大学 呼吸器内科・血液内科学	久山彰一
23	NEJ050A	未治療進行非小細胞肺癌における悪液質の合併と化学療法に与える影響の観察研究	順天堂大学 呼吸器内科	久山彰一
24	AfaBev 付随研究	活性型EGFR変異陽性非小細胞肺癌患者における一次療法としてのアファチニブ+ペバシズマブ併用療法の有効性および耐性に関わるバイオマーカーの検討 (AfaBev試験付随研究)	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
25	ABCP Study	EGFR遺伝子変異陽性切除不能な進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブ+ペバシズマブ+カルボプラチン+パクリタキセル (ABCP) 療法の多施設共同前向き観察研究	関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科	久山彰一
26	がん薬物療法 SARS-CoV-2ワクチン 安全性観察研究	がん薬物療法中または治療予定の肺がん患者におけるSARS-CoV-2ワクチン接種の安全性を検証するための前向き観察研究	国立病院機構岩国医療センター	田村朋季
27	OLCSG1801 (PS不良 ^h Ⅲ期)	全身状態不良PD-L1高発現の未治療非小細胞肺癌患者に対するペムプロリズマブの有用性を検討する第Ⅱ相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一
28	J-TAIL-2	切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 (NSCLC) または進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) 患者に対するアテゾリズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究	特定非営利活動法人日本肺癌学会 日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野	久山彰一
29	J-TAIL-2付随研究	切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 (NSCLC) または進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) 患者に対するアテゾリズマブ併用療法の 多施設共同前向き観察研究：(J-TAIL-1) におけるバイオマーカー探索研究	特定非営利活動法人日本肺癌学会 日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野	久山彰一
30	NEJ057	75歳以上の未治療進行非小細胞肺癌患者における免疫療法併用化学療法の有効性と安全性を検証する多機関共同後向き観察研究	宮内 栄作 東北大学 呼吸器内科学 分野 助教	久山彰一
31	LOGIK1901	限局型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射による認知機能への影響を評価する前向き観察研究	北里大学医学部呼吸器内科学	久山彰一
32	ENSURE-GA STUDY (NEJ041/CS-Lung001)	高齢非小細胞肺癌患者の患者満足度に対する機能評価 (Geriatric Assessments) の有用性を検討するクラスターランダム化第 3 相比較臨床試験	島根大学医部附属病院 呼吸器内科・化学療法内科	久山彰一
33	H31-NHO(癌呼)-02 (ICI-PREDICT study) NHOネットワーク共同研究	根治照射不能な進行非小細胞肺癌患者における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子としての栄養/免疫学的指標の臨床的意義に関する前向き観察研究 (NHOネットワーク共同研究)	国立病院機構九州がんセンター	久山彰一
34	ICI-PREDICT study 付随研究	免疫チェックポイント阻害剤投与肺癌症例における効果予測栄養/免疫関連バイオマーカーの探索 (H31-NHO(癌呼)-02・ICI-PREDICT付随研究)	国立病院機構九州がんセンター	久山彰一
35	NINJA Study	免疫チェックポイント阻害薬既治療進行再発肺扁平上皮癌に対するネシツムマブ/シスプラチン/ゲムシタピン療法の安全性と有効性を評価するための多機関後方視研究	帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科	久山彰一
36	OLCSG2001	術後再発または根治的放射線療法不能Ⅲ期またはⅣ期の非小細胞肺癌で免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法後のOligo-PD症例を対象に逐次放射線療法後の免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法維持療法の有効性と安全性を探索的に評価する第Ⅱ相試験 (OLCSG2001)	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山彰一

循環器内科

1	ベルイシグアトレジストリー	ベルイシグアトレジストリー多施設共同前向き観察研究	岡山大学病院	片山祐介
2	CAPRICORN	大腿膝窩動脈病変に対する薬剤溶出性バルーンと薬剤溶出性ステントの治療成績比較	岡山大学病院	川本健治
3	NEXT Trial: Extended Follow-up Study	実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステント (BES) とエベロリムス溶出性ステント (EES) の有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験：長期追跡試験	一般財団法人 生産開発科学研究所	片山祐介
4	CAPSICUM	大腿膝窩動脈病変を有する閉塞性動脈硬化症患者に対するバクリタキセル薬剤溶出型末梢ステントを用いた血管内治療に関する多施設・前向き研究	株式会社エヌ・ブラクティス	川本健治
5	H29-NHO (循環) -03 (NHOC-Prevent-CAS) NHOネットワーク共同研究	冠動脈軽度から中等度狭窄の高リスクプラークを有する患者に対する適正な脂質管理目標値の有効性および安全性を検討する多施設共同非盲検ランダム化比較試験 (NHOネットワーク共同研究)	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター臨床研究部	片山祐介
6	アミロイドレジストリー	多施設共同前向き観察研究 「左室駆出率が保たれた心不全患者における老人性トランスサイレチン型心アミロイドーシスの有病率・適切な検査法・予後の検討」	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学	片山祐介
7	静脈血栓症の遺伝的要因に関する研究	静脈血栓症の遺伝的要因に関する研究	金沢大学附属病院血液内科	和田匡史

胸部外科

2	IP気胸 (H31-NHO(呼吸)-01) NHOネットワーク共同研究	間質性肺疾患に合併した気胸症例における治療方針と治療成績の前向きリアルワールドデータ調査	東広島医療センター	片岡和彦
1	高齢者肺癌調査研究	高齢者肺癌に対する外科治療の安全性と有効性を評価するための多施設共同前向き調査研究	聖マリアンナ医科大学	片岡和彦
3	REVEAL-IP	間質性肺炎合併肺癌切除患者における術後急性増悪予測リスクスコアバリデーションスタディ -多施設共同非介入前向き研究-	京都大学医学部付属病院 呼吸器外科	片岡和彦

外科

5	H29-NHO(癌消)-01 (H29-NHO-SBC) NHOネットワーク共同研究	原発性小腸癌患者の治療と予後に関する多施設共同前向き観察研究 (NHOネットワーク共同研究)	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 消化器内科	青木秀樹
---	--	--	-----------------------------------	------

6.院内研究一覧（研究課題名、所属、研究者）

1	右心房-左心房間の電氣的興奮伝播様式に関する検討	循環器内科	和田 匡史
2	当科でのロボット支援下手術の導入に向けた課題	外科	木村 裕司
3	高齢者肝胆膵領域癌に対する手術成績の検討 －術前免疫栄養指標は短期・長期予後因子になり得るか－	外科	木村 裕司
4	StagelA肺癌手術例における術前呼吸機能と術後予後の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
5	Lynch症候群に合併した胸腺癌の2例について	胸部外科	渡邊 元嗣
6	メトトレキサートの血中濃度と唾液中濃度の相関性調査	薬剤部	武良 卓哉
7	食道胃接合部癌に対する至適術式の検討	外科	渡邊 めぐみ
8	リンチ症候群の拾い上げと臨床病理学的特徴の解析	外科	田中屋 宏爾
9	様々な遺伝性疾患のカウンセリング体制構築に関する研究	外科	田中屋 宏爾
10	大腸癌の分子プロファイルに関する研究	外科	谷口 文崇
11	ドライボックスの導入と若手外科医の腹腔鏡手術に関する検討	外科	小川 俊博
12	上部消化管患者のサルコペニアの予防による 術後合併症率と予後に関する検討	外科	小川 俊博
13	膵切除後の脂肪肝および膵性糖尿病と 膵管径を含む膵容積の変化との関連に関する研究	外科	青木 秀樹
14	術前化学療法後の食道扁平上皮癌切除症例におけるXIAPの発現の解析	外科	勝田 浩
15	持続的神経モニタリングシステム使用による食道癌術後反回神経麻痺低減の可能性	外科	勝田 浩
16	急性膿胸手術症例における予後栄養指数の有効性に関する検討	胸部外科	塩谷 俊雄
17	心房細動カテーテルアブレーション患者における食塩摂取量調査	循環器内科	和田 匡史
18	看護研究業績収録（令和3年度）	看護部	藤野 和子
19	令和4年度看護研究 5題	看護部	藤野 和子
20	ロボット支援胃癌手術の導入	外科	渡邊 めぐみ
21	進行胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討	外科	渡邊 めぐみ
22	フレイルを合併する急性心不全患者に対する人参養栄湯の有効性に関する単施設・前向き研究	循環器内科	川本 健司
23	栄養不良を伴う包括的高度慢性下肢虚血(CLTI) 患者に対するビタミンやミネラルの積極的な補充、ならびに人参養栄湯の有効性に関する単施設前向き介入研究	循環器内科	川本 健司

24	低栄養を合併する循環器疾患患者に対し、食事に加え、経口的栄養補助oral Nutrition supplements(ONS)を追加提供した効果に関する単施設前向き介入研究	循環器内科	川本 健司
25	ロボット支援下直腸切除に関する研究	外科	谷口 文崇
26	岩国医療センターにおける急性期脳卒中治療の現状分析	脳神経外科	伊丹 尚多
27	膵切除における亜鉛値の変動と膵機能の推移に関する研究	外科	青木 秀樹
28	高齢者大腸癌に対する臨床成績の検討	外科	三宅 英輝
29	除湿機の排水を用いた医療環境空气中に気化・飛散した抗がん剤を検出する方法の 検討	薬剤部	松本 拓真
30	EGFR-TKI既治療例におけるエルロチニブ、ラムシルマブ 併用療法の後方視的検討	呼吸器内科	田村 朋季
31	ATTR型心アミロイドーシスを疑う患者と右心壁肥厚の関連に関する研究	循環器内科	高山 伸
32	高齢者気胸におけるPrognostic nutritional indexおよび 大腰筋量の検討	胸部外科	塩谷 俊雄
33	臨床病期Ⅰ期非小細胞肺癌に対する底区域切除術と 肺葉切除術の比較検討	胸部外科	塩谷 俊雄

7.治験等

治験

	研究課題名	委託者	診療科
1	転移性非小細胞肺癌（NSCLC）患者に対する一次治療においてデュルバルマブ単剤又はデュルバルマブ+トレメリマブに白金製剤を含む化学療法を併用した場合の有効性を検討する第III相無作為化非盲検国際多施設共同比較試験	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
2	ONO-4538 第III相試験 非扁平上皮非小細胞肺癌に対する多施設共同二重盲検無作為化試験	小野薬品工業株式会社	呼吸器内科
3	左室駆出率の保たれた心不全（HFpEF）患者を対象として、心血管死又は心不全悪化の減少に対するダバグリフロジンの効果を評価する国際共同二重盲検無作為化プラセボ対照第III相試験 DELIVER試験－左室駆出率が保たれた心不全患者におけるダバグリフロジンの生存状況に対する改善効果の検討－	アストラゼネカ株式会社	循環器内科
4	同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌（ステージI～III）の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験（ADRIATIC）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
5	ステージII及びIIIの切除可能非小細胞肺癌患者に対する治療として、ネオアジュバント/アジュバント療法におけるデュルバルマブ投与を評価する第III相二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験(AEGEAN)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
6	KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験	7iジェン株式会社	呼吸器内科
7	左室駆出率40%以上の心不全患者（NYHA心機能分類II～IV度）における罹患率及び死亡率に関して、finerenoneの有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験	バイエル薬品株式会社	循環器内科
8	上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療におけるプラチナ製剤+ペムトレキセドの併用又は非併用下でオシメルチニブの有効性及び安全性を検討する第III相非盲検無作為化試験	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
9	JR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第II相試験	JCRファーマ株式会社	小児科
10	中等症COVID-19の入院成人患者を対象に、エアロゾル化JH509の安全性及び有効性を評価する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験	Genova Inc. (治験国内管理人) IQVIAサービシーズ ジャパン株式会社	小児科
11	EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのAmivantamabとLazertinibの併用、オシメルチニブ、及びLazertinibを比較する第3相ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
12	オシメルチニブが無効となったEGFR変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブ及びlazertinibとプラチナ製剤を含む化学療法の併用とプラチナ製剤を含む化学療法を比較する第3相、非盲検、ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
13	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1高発現（TPSが50%以上）の進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDato-DXd及びペムプロリズマブ併用療法とペムプロリズマブ単剤療法を比較する無作為化非盲検第III相試験	第一三共株式会社	呼吸器内科
14	JR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第II相試験の継続投与試験	JCRファーマ株式会社	小児科
15	局所進行又は転移を伴う日本人非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象とするPozitotinibの第I/II相用量設定試験	Genova Inc. (治験国内管理人) IQVIAサービシーズ ジャパン株式会社	呼吸器内科
16	HERTHENA-Lung02：上皮成長因子受容体（EGFR）チロシinkinナーゼ阻害剤（TKI）療法が奏効しなかった転移性又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性（EGFRm）非小細胞肺癌（NSCLC）を対象としたパトリツマブ デルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験	第一三共株式会社	呼吸器内科
17	NAS-L3Kの未治療前立腺癌患者を対象とした薬力学的同源性試験	ニプロ株式会社	泌尿器科
18	オシメルチニブ及び化学療法後に進行したEGFR遺伝子変異陽性進行又は転移性非小細胞肺癌患者におけるラゼルチニブ併用投与時のアミバンタマブ手動注入による皮下投与とアミバンタマブ静脈内投与又はOBDSを用いたアミバンタマブ自動注入による皮下投与とを比較する、第3相、非盲検、ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科

19	左室駆出率が40%超の心不全患者にAZD4831を48週間まで投与したときの有効性及び安全性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同後期第2相及び第3相連続試験	アストラゼネカ株式会社	循環器内科
20	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1 TPS50%未満の進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象としたDatopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) とペムプロリズマブの併用療法（プラチナ製剤化学療法との併用又は非併用）を検討する無作為化第III相試験（TROPION-Lung07）	第一三共株式会社	呼吸器内科
21	オンメルチニブ投与中に進行したEGFR変異陽性でMET過剰発現及び/又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にsavolitinibとオンメルチニブの併用療法と白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験（SAFFRON）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
22	プラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象としてSacituzumab Govitecanをドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験	ギリアド・サイエンシズ株式会社	呼吸器内科
23	治療抵抗性肺Mycobacterium avium Complex症患者を対象としてEprex経口投与の有効性、安全性及び薬物動態を評価する第2/3相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同 前向き試験（MACrO2）	メドベイス・ジャパン株式会社	呼吸器内科
24	OPC-131461の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験	大塚製薬株式会社	循環器内科

特定使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	オプスミット錠10mg特定使用成績調査（長期使用）	アクリオンファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	循環器内科
2	オプジーボ特定使用成績調査〔再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫〕	ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社	血液内科
3	ブララエント特定使用成績調査	サノフィ株式会社	循環器内科
4	ザーコリカプセル特定使用成績調査 -ROS1融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌に対する調査-	ファイザー株式会社	呼吸器内科
5	レバーサ皮下注140mgシリンジ 長期特定使用成績調査	アステラス製薬株式会社	循環器内科
6	ウブトラビ錠0.2mg・0.4mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査）	日本新薬株式会社	循環器内科
7	ファセンラ皮下注30mgシリンジ特定使用成績調査（長期）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
8	リツキシマブBS点滴静注100mg 500mg「KHK」 特定使用成績調査	協和キリン株式会社	血液内科
9	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的放射線療法後の維持療法の患者を対象とした特定使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
10	タフィンラー®カプセル50 mg, 75 mgメキニスト®錠0.5 mg, 2 mg BRAF 遺伝子変異を有する切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査	ノバルティス ファーマ株式会社	呼吸器内科
11	ガザイバ®点滴静注1000mg 特定使用成績調査	中外製薬株式会社	血液内科
12	ネスブ注射液ブラシリンジ特定使用成績調査 「骨髄異形成症候群に伴う貧血における調査」	協和キリン株式会社	呼吸器内科
13	ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
14	ゼルヤンツ®錠5mg 特定使用成績調査 （潰瘍性大腸炎患者を対象とした長期使用に関する調査）	ファイザー株式会社	消化器内科
15	エンハーツ点滴静注100mg 特定使用成績調査 - 乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討 -	第一三共株式会社	外科
16	保存治療の重症下肢虚血における特定使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科
17	コラテジェン投与における長期観察の特定使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科

18	ベレキシブル®錠 特定使用成績調査 再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫(PCNSL)	小野薬品工業株式会社	血液内科
19	ビジンプロ錠 特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
20	エンハーツ点滴静注100mg 特定使用成績調査 - 胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討 -	第一三共株式会社	外科
21	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg進展型小細胞肺癌患者を対象とし特定使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
22	ベネクレスト®錠 特定使用成績調査 - 急性骨髄性白血病を対象とした全例調査 -	アヅヴィ合同会社	血液内科
23	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	呼吸器内科
24	パベンチオ点滴静注200mg特定使用成績調査（根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法）	ルクバイオファーマ株式会社	泌尿器科
25	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	消化器内科
26	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	外科
27	「ダラキューロ配合皮下注」に関する特定使用成績調査	ヤンセンファーマ株式会社	血液内科
28	日本人RET融合遺伝子陽性NSCLC患者を対象とした セルベルカチニブ特定使用成績調査（全例調査）	日本イーライリリー株式会社	呼吸器内科
29	ルマケラス特定使用成績調査(全例調査)	アムジェン株式会社	呼吸器内科
30	ビヴラッツ点滴静注液150mg 特定使用成績調査(長期観察)	イドルシアファーマシューティ カルズジャパン株式会社	脳神経外科
31	エジャイモ点滴静注1.1g特定使用成績調査<寒冷疑集素症患者>	サノフィ株式会社	血液内科

32	クリースピーータ皮下注 特定使用成績調査 —FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査—	協和キリン株式会社	小児科
----	--	-----------	-----

使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	気管支充填剤EWSの使用成績調査	原田産業株式会社	呼吸器内科
2	ビミジム点滴静注液5mg使用成績調査	バイオマリンファーマシュー ティカルジャパン株式会社	小児科
3	イストダックス®点滴静注用 10mg 使用成績調査 再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫	セルジーン株式会社	血液内科
4	リムバーザ錠100mg、150mg がん化学療法歴のあるBRCA遺伝子変異陽性かつ HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象とした使用成績調査	アストラゼネカ製薬株式会社	外科
5	アイクルシグ®錠15mg 使用成績調査	大塚製薬株式会社	血液内科
6	ヴァンフリタ®錠 一般使用成績調査	第一三共株式会社	血液内科
7	トレアキシン®点滴静注用使用成績調査 —慢性リンパ性白血病における重症感染症発現状況に関する調査—	エーザイ株式会社	血液内科
8	ジーンブラバ®点滴静注625mg 一般使用成績調査	MSD株式会社	血液内科
9	ジフォルタ注射液20mg使用成績調査	ムンディファーマ株式会社	血液内科
10	サムスカ 一般使用成績調査 (SIADHにおける低ナトリウム血症)	大塚製薬株式会社	呼吸器内科
11	レブラミド®カプセル 一般使用成績調査 (再発又は難治性のFL及びMZL)	ブリistolマイヤーズ株式会社	血液内科
12	ジクトルテープ 一般使用成績調査	久光製薬株式会社	呼吸器内科
13	「バイクロット®配合静注用」使用成績調査	日本血液製剤機構	呼吸器内科
14	ロズリートレク®カプセル 一般使用成績調査 (全例調査) - ROS1融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 -	中外製薬株式会社	呼吸器内科
15	ハイヤスタ錠10mg 再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)患者に おける一般使用成績調査 (全例調査)	Meiji Seika ファルマ株式会社	血液内科
16	ハーセプチン®注射用60、同150-一般使用成績調査 -HER2陽性の根治切除不能な進行・再発の唾液腺癌—	中外製薬株式会社	耳鼻いんこう科
17	アルンプリグ錠 一般使用成績調査 「非小細胞肺癌」	武田薬品工業株式会社	呼吸器内科
18	ミダフレッサ静注0.1% 一般使用成績調査	アルフレッサファーマ株式会社	脳神経外科
19	オブジーボ® 一般使用成績調査 (原発不明癌)	ブリistolマイヤーズ・スクイ ブ株式会社	呼吸器内科
20	ラバリムス錠1 mg(難治性リンパ管疾患)一般使用成績調査(全例調査)	ノーベルファーマ株式会社	整形外科
21	オンデキサ静注用200mg 一般使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	脳神経外科
22	ジェセリ錠40mg 一般使用成績調査(全例調査)	大鵬薬品工業株式会社	消化器内科

副作用報告

	研究課題名	委託者	診療科
1	イミフィンジ点滴静注 副作用・感染症詳細調査	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
2	有害事象・感染症詳細調査	協和発酵キリン株式会社	血液内科
3	テブミトコ錠250mg 間質性肺疾患 副作用調査	ルクバイオファーマ株式会	呼吸器内科

その他の研究

	研究課題名	委託者	診療科
1	脊椎内固定器具「Associa ZiQueスパイナルシステム」の使用成績調査	京セラ株式会社	整形外科

編集後記

病院年報が完成しましたので、皆様にお届けさせていただきます。2022年度における病院の活動や成果についての情報を皆様にお伝えできることを大変嬉しく思います。

さて、2023年の5月に新型コロナウイルスが5類感染症になってから、徐々に活動が活発になってきておりますが、未だに落ち着いたとは言えない状態です。

その中でも研究活動を継続し、より良い治療を取り入れていくために学会、論文、臨床研究なども元の状況になってきているのではないかと思います。学会はインターネットを活用した、web学会、Hybrid学会も主でしたが、対面での学会も増加し始め、活発な議論が展開されて始めてきております。海外学会も参加が増えてきているのではないのでしょうか。

こうして病院の研究と学会活動が着実に回復してきていることを喜ばしく思います。新たな知見と連携が私たちの治療と医療の向上に貢献していることを確信しております。新しい年報を通じて、皆様に病院の最新情報をお伝えできることを誇りに思います。今後とも宜しく願います。

臨床研究部長 久山彰一